



SunTM ONE Studio 8 インストールガイド

SunTM ONE Studio 8

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054 U.S.A.
650-960-1300

Part No. 817-2901-10
2003 年 5 月 , Revision A

Copyright © 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

この配布には、第三者が開発したソフトウェアが含まれている可能性があります。

フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

libdwarf and lidredblack are Copyright 2000 Silicon Graphics Inc. and are available under the GNU Lesser General Public License from <http://www.sgi.com>.

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Forte、Java、iPlanet、NetBeans および docs.sun.com は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

Netscape および Netscape Navigator は、米国ならびに他の国における Netscape Communications Corporation の商標または登録商標です。

すべての SPARC の商標はライセンス規定に従って使用されており、米国および他の各国における SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。SPARC の商標を持つ製品は、Sun Microsystems, Inc. によって開発されたアーキテクチャに基づいています。

このマニュアルに記載されている製品および情報は、米国の輸出規制に関する法規の適用および管理下にあり、また、米国以外の国の輸出および輸入規制に関する法規の制限を受ける場合があります。核、ミサイル、生物化学兵器もしくは原子力船に関連した使用またはかかる使用者への提供は、直接的にも間接的にも、禁止されています。このソフトウェアを、米国の輸出禁止国へ輸出または再輸出すること、および米国輸出制限対象リスト(輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストを含む)に指定された、法人、または団体に輸出または再輸出することは一切禁止されています。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含み、明示的であるか黙示的であるかを問わず、あらゆる説明および保証は、法的に無効である限り、拒否されるものとします。

原典：	Installation Guide Part No: 817-0642-10 Revision A
-----	--

© 2003 by Sun Microsystems, Inc.



目次

はじめに ix

1. インストールの準備 1

ソフトウェアのインストールの概要 1

システム条件 3

スワップ空間の追加 4

このリリースに含まれるインストール機能 5

2. Sun ONE Studio 8 ソフトウェアのインストール 7

旧リリースの Sun ONE Studio と Forte Developer のサポート 7

試用版ソフトウェアからのアップグレード 8

インストールの前に 9

製品のシリアル番号の検索 9

電子ダウンロードしたファイルの準備 9

Compiler Collection ソフトウェアを IDE で使用するためのパスの設定 10

インストーラのローカル表示とリモート表示の選択 10

GUI インストーラの使い方 16

コマンド行インストーラの使い方 21

バッチインストーラの使い方 25

Solaris JumpStart インストーラの使い方 27

開発ツールとマニュアルページへのアクセスの設定 28

Sun ONE Studio 8, Compiler Collection のマニュアルの参照 32

Compiler Collection ソフトウェアの登録 33

3. Sun ONE Studio 8 ソフトウェアのアンインストール 35

アンインストールのローカル表示とリモート表示の選択 36

リモート表示によるアンインストールの準備 37

GUI アンインストールの使い方 38

コマンド行アンインストールの使い方 40

4. トラブルシューティング 43

シンボリックリンクを使ってアクセスされるディレクトリへのインストール 43

製品レジストリの問題 45

インストールが失敗した場合の確認および対処法 45

アンインストールが失敗した場合の対処法 46

`productregistry` ファイルが破壊された場合の対処法 47

ログファイルとシリアル番号ファイル 48

インストールログファイルの参照方法 48

インストールされているシリアル番号の確認方法 48

シリアル番号を忘れてしまった場合の対処法 49

リモート表示インストールによるインストール 49

NFS マウントファイルシステムでインストールが失敗した場合 49

リモート表示インストール中に ToolTalk ソフトウェアセッションを初期化する方法 50

バッチインストーラが停止した場合の対処法 50

A. Sun ONE Studio 8 のコンポーネントとパッケージ 53

B. パッチの識別番号と説明 71

C. Sun ONE Studio 8 ソフトウェアのコンポーネントのバージョン番号 75

用語集 77

索引 79

表目次

表 1-1	システム条件 3
表 2-1	<code>batch_installer</code> のオプションとオプションの説明 26
表 2-2	<code>batch_installer</code> コマンドとオプションを使用したインストールシナリオ 26
表 3-1	ソフトウェア名とアンインストーラ <code>.class</code> ファイル名の関係 36
表 A-1	Solaris <i>SPARC</i> プラットフォーム版用 Sun ONE Studio 8 製品パッケージのメタクラスタコンポーネント 54
表 A-2	Solaris <i>SPARC</i> プラットフォーム版用 Sun ONE Studio 8 製品パッケージのコンポーネント 55
表 A-3	Solaris <i>x86</i> プラットフォーム版用 Sun ONE Studio 8 製品パッケージメタクラスタのコンポーネント 64
表 A-4	Solaris <i>x86</i> プラットフォーム版用 Sun ONE Studio 8 製品パッケージのコンポーネント 65
表 B-1	Sun ONE Studio 8 ソフトウェアによってインストールされる Solaris 7 <i>SPARC</i> プラットフォーム版用のパッチ 72
表 B-2	Sun ONE Studio 8 ソフトウェアによってインストールされる Solaris 7 <i>x86</i> プラットフォーム版用のパッチ 72
表 B-3	Sun ONE Studio 8 ソフトウェアによってインストールされる Solaris 8 <i>SPARC</i> プラットフォーム版用のパッチ 72
表 B-4	Sun ONE Studio 8 ソフトウェアによってインストールされる Solaris 8 <i>x86</i> プラットフォーム版用のパッチ 72
表 B-5	Sun ONE Studio 8 ソフトウェアによってインストールされる Solaris 9 <i>SPARC</i> プラットフォーム版用のパッチ 73
表 B-6	Sun ONE Studio 8 ソフトウェアによってインストールされる Solaris 9 <i>x86</i> プラットフォーム版用のパッチ 73
表 C-1	Sun ONE Studio 8 ソフトウェアのコンポーネントのバージョン番号 75

はじめに

このマニュアルでは、次の作業手順について説明します。

- Sun™ Open Net Environment (Sun ONE) Studio 8、Compiler Collection 製品およびシリアル番号のインストール
- Forte™ Developer あるいは Sun ONE Studio Compiler Collection のアンインストール
- インストールに関する問題のトラブルシューティング

このマニュアルは、ソフトウェアのインストールを行うシステム管理者を対象にしています。Solaris™ のオペレーティング環境と UNIX® のコマンドについて多少の知識が必要となります。

書体と記号について

次の表と記述は、このマニュアルで使用している書体と記号について説明しています。

書体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コーディング例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 machine_name% You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表わします。	machine_name% su Password:
AaBbCc123 または ゴシック	コマンド行の可変部分。実際の名前または実際の値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。 rm ファイル名 と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『SPARCstorage Array ユーザーマニュアル』
「」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合、バックスラッシュは、継続を示します。	machinename% grep `^#define \nXV_VERSION_STRING`
➤	階層メニューのサブメニューを選択することを示します。	作成: 「返信」 ➤ 「送信者へ」

コードの 記号	意味	記法	コード例
[]	角括弧にはオプションの引数が含まれます。	<code>O[n]</code>	<code>-O4, -O</code>
{ }	中括弧には、必須オプションの選択肢が含まれます。	<code>d{y n}</code>	<code>-dy</code>
	「パイプ」または「バー」と呼ばれる記号は、その中から 1 つだけを選択可能な複数の引数を区切ります。	<code>B{dynamic static}</code>	<code>-Bstatic</code>
:	コロンは、コンマ同様に複数の引数を区切るために使用されることがあります。	<code>Rdir[:dir]</code>	<code>-R/local/libs:/U/a</code>
...	省略記号は、連続するものの一部が省略されていることを示します。	<code>-xinline=<i>fl</i>[...<i>fn</i>]</code>	<code>-xinline=alpha,dos</code>

シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	<code>machine_name%</code>
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	<code>machine_name\$</code>
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	<code>#</code>

コンパイラコレクションのマニュアルへのアクセス

マニュアルには、以下からアクセスできます。

- 製品マニュアルは、ご使用のローカルシステムまたはネットワークの製品にインストールされているマニュアルの索引から入手できます。
`/opt/SUNWspro/docs/ja/index.html`

製品ソフトウェアが `/opt` 以外のディレクトリにインストールされている場合は、システム管理者に実際のパスをお尋ねください。

- マニュアルは、`docs.sun.com` の Web サイトで入手できます。以下に示すマニュアルは、インストールされている製品のマニュアルの索引から入手できます (`docs.sun.com` Web サイトでは入手できません)。
 - 『Standard C++ Library Class Reference』
 - 『標準 C++ ライブラリ・ユーザーズガイド』
 - 『Tools.h++ クラスライブラリ・リファレンスマニュアル』
 - 『Tools.h++ ユーザーズガイド』
- リリースノートは、`docs.sun.com` で入手できます。

インターネットの `docs.sun.com` Web サイト (<http://docs.sun.com>) から、サンのマニュアルを参照したり、印刷したり、購入することができます。マニュアルが見つからない場合はローカルシステムまたはネットワークの製品とともにインストールされているマニュアルの索引を参照してください。

注 - Sun では、本マニュアルに掲載した第三者の Web サイトのご利用に関しましては責任はなく、保証するものでもありません。また、これらのサイトあるいはリソースに関する、あるいはこれらのサイト、リソースから利用可能であるコンテンツ、広告、製品、あるいは資料に関して一切の責任を負いません。**Sun** は、これらのサイトあるいはリソースに関する、あるいはこれらのサイトから利用可能であるコンテンツ、製品、サービスのご利用あるいは信頼によって、あるいはそれに関連して発生するいかなる損害、損失、申し立てに対する一切の責任を負いません。

アクセシブルな製品マニュアル

マニュアルは、技術的な補足をすることで、ご不自由なユーザーの方々にとって読みやすい形式のマニュアルを提供しております。アクセシブルなマニュアルは以下の表に示す場所から参照することができます。製品ソフトウェアが /opt 以外のディレクトリにインストールされている場合は、システム管理者に実際のパスをお尋ねください。

マニュアルの種類	アクセシブルな形式と格納場所
マニュアル (サードパーティ製マニュアルは除く)	形式：HTML (日本語版は PDF のみ) 場所： http://docs.sun.com
サードパーティ製マニュアル: 『Standard C++ Library Class Reference』 『標準 C++ ライブラリ・ ユーザーズガイド』 『Tools.h++ クラスライ ブラリ・リファレンスマ ニュアル』 『Tools.h++ ユーザーズ ガイド』	形式：HTML 場所： file:/opt/SUNWspro/docs/ja/index.html のマニュアル索引
Readme および マニュアル ページ	形式：HTML 場所： file:/opt/SUNWspro/docs/ja/index.html のマニュアル索引
リリースノート	製品 CD 内の HTML ファイル

開発者向けのリソース

<http://www.sun.com/developers/studio> にアクセスし、Compiler Collection というリンクをクリックして、以下のようなリソースを利用できます。リソースは頻繁に更新されます。

- プログラミング技術と最適な演習に関する技術文書
- プログラミングに関する簡単なヒントを集めた知識ベース

- **Compiler Collection** のコンポーネントのマニュアル、ソフトウェアと共にインストールされるマニュアルの訂正
- サポートレベルに関する情報
- ユーザーフォーラム
- ダウンロード可能なサンプルコード
- 新しい技術の紹介
- <http://www.sun.co.jp/developers/> でも開発者向けのリソースが提供されています。

技術サポートへの問い合わせ

製品についての技術的なご質問がございましたら、以下のサイトからお問い合わせください (このマニュアルで回答されていないものに限ります)。

<http://sun.co.jp/service/contacting>

第1章

インストールの準備

この章には、次のトピックに関する情報が含まれます。

- ソフトウェアのインストールの概要
- システム条件
- スワップ空間の追加
- このリリースに含まれるインストール機能

ソフトウェアのインストールの概要

この節では、Sun ONE Studio 8, Compiler Collection ソフトウェア、製品シリアル番号、およびサポートソフトウェアをインストールする一般的な手順についての概要を説明します。個々の手順については、各ステップに示した参照先を参照してください。

タスク	説明	参照先
1. Sun ONE Studio 8 ソフトウェアのインストール先のシステムが、このリリースの最低条件を満たしていることを確認します。	パフォーマンスを正常に維持するために、システム条件に合ったシステムを使用することをお勧めします。	この手順については、3 ページの「システム条件」を参照してください。
2. 旧リリースの Sun ONE Studio または Forte Developer ソフトウェアを残しておくかどうかを決定します。	旧バージョンを残しておく場合は、この Sun ONE Studio 8 ソフトウェアのインストール先として別のディレクトリを指定します。	この手順については、第 2 章の 7 ページの「旧リリースの Sun ONE Studio と Forte Developer のサポート」を参照してください。
3. Early Access バージョンの Sun ONE Studio 8, Compiler Collection ソフトウェアをインストールしている場合は、これをアンインストールしてから、インストールを進める必要があります。	最新バージョンのソフトウェアには、Early Access バージョンでは使用できなかった更新が含まれます。	アンインストール手順については、第 3 章を参照してください。
4. 製品のインストール時に、製品シリアル番号をインストールする必要があります。	製品は、有効なシリアル番号がないと動作しません。	製品のインストールとシリアル番号のインストールについては、第 2 章を参照してください。
5. ローカル表示とリモート表示のどちらでインストーラを表示するかを決定します。	Sun ONE Studio ソフトウェアは、リモート表示またはローカル表示のどちらを使用してもインストールできます。	詳細については、10 ページの「インストーラのローカル表示とリモート表示の選択」を参照してください。
6. Compiler Collection ソフトウェアを Forte Developer 6 update 2 IDE で使用するかどうかを決定します。	Forte Developer 6 update 2 製品のインストール先パスを検出して、Compiler Collection のインストールに使用します。	詳細については、第 2 章の 10 ページの「Compiler Collection ソフトウェアを IDE で使用するためのパスの設定」を参照してください。

このマニュアルの手順を実行すると、Sun ONE Studio 8, Compiler Collection ソフトウェアを使用できるようになります。

システム条件

この Sun ONE Studio Compiler Collection リリースは、Solaris™ オペレーティング環境 (SPARC® プラットフォーム版) バージョン 7、8、および 9 と、Solaris オペレーティング環境 (x86 プラットフォーム版) バージョン 7、8、および 9 をサポートしています。

注 – ディスク容量の条件、およびこのリリースに関する最新の情報については <http://docs.sun.com/> の docs.sun.com web サイトの Sun ONE Studio 8, Compiler Collection に掲載されているリリースノートを参照してください。

表 1-1 にシステム条件を示します。

表 1-1 システム条件

	Solaris SPARC プラットフォーム版	Solaris x86 プラットフォーム版
オペレーティング環境	Solaris 7、8、または 9	Solaris 7、8、または 9
システム	Ultra 60 360 MHz; Sun Blade 100 500 MHz を推奨 Ultra 10 以上	Pentium III 450 MHz を推奨 Pentium II 350 MHz 以上
モニター	1152 x 900 解像度; 15" カラーモニター	
メモリー	256 M バイト以上、768 M バイトを推奨	
スワップ空間*	512 M バイト以上、1024 M バイトを推奨	
ディスク容量	500 M バイト	
追加ソフトウェア	J2SE 1.4.1 および必要なパッチ	
OS の構成	全体ディストリビューションと OEM サポート、全体ディストリビューション、または 開発者システムサポート	

*スワップ空間のチェックには、`swap -s` コマンドを使用してください。

スワップ空間の追加

スワップ空間を追加するには、以下を実行します。

1. 次のコマンドを入力して、スーパーユーザー (root) になります。

```
% su
Password: root-password
```

2. スワップ空間を追加するために、次のコマンドで特定のディレクトリにファイルを作成します。

```
mkfile -n number[m|k|b] /directory/swap-file-name
```

ここで、*number* ではスワップ空間の容量を指定し、それに続けて容量の単位 (M バイトの場合は m、K バイトの場合は k、ブロックの場合は b) を入力します。*directory* では、スワップ空間の追加権限が与えられているディレクトリを指定します。*swap-file-name* 名では、作成するスワップファイルの名前を指定します。

たとえば、foo ディレクトリに 16mswap という名前の 16 M バイトのスワップファイルを作成するには、次のようにします。

```
# mkfile 16m /foo/16mswap
```

詳細は、mkfile(1M) のマニュアルページを参照してください。

3. 次のとおり入力して、ファイルが作成されたかどうか確認します。

```
#ls -l /directory/swap-file-name
```

新しいファイルがディレクトリに表示されます。次に例を示します。

```
# ls -l /foo/16mswap
-rw-----T  1 root      other    16777216 Dec 12 14:24 /foo/16mswap
```

4. `swap` コマンドを実行して、追加するスワップ空間を指定します。

```
#swap -a /directory/swap-file-name
```

5. 次のとおり入力して、スワップ空間が追加されたかどうか確認します。

```
#swap -s
```

出力には、割り当てられたスワップ空間が表示されます。次に例を示します。

```
#swap -s  
total: 289336k bytes allocated + 27008k reserved = 316344k used,  
298336k available
```

このリリースに含まれるインストール機能

この Sun ONE Studio Compiler Collection リリースには、次のインストール機能が含まれています。

- グラフィカルユーザーインターフェースのインストール
- コマンド行のインストール
- バッチのインストール
- Solaris JumpStart™ のインストール (Solaris™ 9 オペレーティング環境の場合のみ)
- シリアル番号インストールツール (snit)

第 2 章 には、各機能を使用する手順が示されています。

第2章

Sun ONE Studio 8 ソフトウェアのインストール

この章では、Sun™ ONE Studio 8, Compiler Collection ソフトウェアとシリアル番号をインストールするための具体的な手順について説明します。

注 – ソフトウェアのインストールに `pkgadd` コマンドを使用することは避けてください。提供されているインストーラを使用してください。

旧リリースの Sun ONE Studio と Forte Developer のサポート

同一マシン上で、旧リリースの Sun ONE Studio Compiler Collection と Forte Developer と新リリースの Sun ONE Studio の両方をサポートするには、別のディレクトリを新しいリリースのインストール先に選択してください。たとえば、旧リリースの開発支援ツールが `/opt` ディレクトリにインストールされている場合は、十分なディスク空き容量を持つファイルシステムの新しいディレクトリに新しい開発支援ツールをインストールします。

インストールが完了したら、環境変数 `PATH` と `MANPATH` を修正し、新しいディレクトリを使用するように設定します。新しいリリースを使用するために変数を設定する詳細については、28 ページの「開発ツールとマニュアルページへのアクセスの設定」を参照してください。

試用版ソフトウェアからのアップグレード

試用版ソフトウェアから購入版ソフトウェアにアップグレードする場合、ソフトウェアを再インストールする必要はありません。実行する必要があるのは、提供されているインストーラを使って永久シリアル番号をインストールすることだけです。16 ページの「GUI インストーラの使い方」または 21 ページの「コマンド行インストーラの使い方」の手順に従い、永久シリアル番号の入力後にインストーラを終了できます。

永久シリアル番号をインストールするには、次の 2 通りの方法があります。

- 製品インストーラを使ってシリアル番号をインストールする。
- シリアル番号インストールツールを使用する。

このソフトウェアにはシリアル番号インストールツール (snit) というユーティリティが含まれています。このユーティリティはコマンド行から実行して、ライセンスファイルの内容を表示し、シリアル番号をインストールするために使用できます。

次のステップに従ってシリアル番号インストールツールを使用して、永久シリアル番号をインストールします。

1. 永久番号を確認します。この手順については、9 ページの「製品のシリアル番号の検索」を参照してください。
2. 次のコマンドを入力して、スーパーユーザー (root) になります。

```
% su
Password:root-password
```

3. snit コマンドを使用して、次のようにシリアル番号を入力します。

```
% /install-directory/SUNWsprd/bin/snit -i serial-number-f
/install-directory/SUNWsprd/prod/lib/serial.dat
```

シリアル番号は、製品の serial.dat ファイルにインストールされます。snit コマンドオプションの詳細については、snit(1) のマニュアルページを参照してください。

インストールの前に

Sun ONE Studio Compiler Collection ソフトウェアをインストールするには、次に示す 4 つの方法があります。

- GUI (グラフィカルユーザーインターフェース) インストーラを使用します。この手順については、16 ページの「GUI インストーラの使い方」を参照してください。
- グラフィカルユーザーインターフェース機能が使用できない場合は、コマンド行インストーラを使用します。この手順については、21 ページの「コマンド行インストーラの使い方」を参照してください。
- バッチインストーラ (25 ページの「バッチインストーラの使い方」を参照) を使用して、デフォルトのインストール先にソフトウェアをインストールします。
- Solaris JumpStart™ インストーラを Solaris™ 9 オペレーティング環境 (27 ページの「Solaris JumpStart インストーラの使い方」を参照) に使用します。このインストーラを使用すると、Sun ONE Studio Compiler Collection ソフトウェアを複数のシステムにインストールする必要がある場合に、ソフトウェアインストールプロセスを自動化することができます。

製品のシリアル番号の検索

製品を購入すると、製品パッケージに封入されているカードにシリアル番号が記載されています。カードに記載された 26 桁の番号を、インストール時にインストーラの「シリアル番号を入力」区画に入力します。インストール時に 60 日間の試用ライセンスのシリアル番号を生成することもできます。

電子ダウンロードしたファイルの準備

電子ダウンロードによってファイルを取得した場合は、ダウンロードしたファイルの詳しいダウンロードおよび解凍手順が製品 Web サイトの <http://www.sun.co.jp/software/sundev/suncc/index.html> に掲載されています。この Web サイトの手順を実行してから、製品のインストールを進めてください。

Compiler Collection ソフトウェアを IDE で使用するためのパスの設定

Compiler Collection ソフトウェアは、Sun™ ONE Studio 4 update 1 ソフトウェアの IDE、または Forte™ Developer 6 update 2 ソフトウェアの IDE で使用することができます。

インストール後に Sun ONE Studio 4 update 1 IDE から Sun ONE Studio 8, Compiler Collection ソフトウェアのコンパイラやツールへのパスを設定する方法については、Sun ONE Studio 4 update 1 で設定された Solaris ネイティブ言語サポートヘルプのオンラインヘルプトピック「IDE からのコンパイルやツールへのリンク」を参照してください。

Compiler Collection ソフトウェアを Forte Developer 6 update 2 IDE で使用するには、Compiler Collection のインストール時に Sun ONE Studio 8 to Forte Developer 6 update 2 (FD6u2) コネクタをインストールする必要があります。Forte Developer 6 update 2 のインストール場所を調べ、インストール時に「Forte Developer 6 update 2 のディレクトリ」テキストボックスにパスを入力します。詳細については、16 ページの「GUI インストーラの使い方」の手順 14、または 21 ページの「コマンド行インストーラの使い方」の手順 13 を参照してください。

これらの IDE オプションの詳細については、
/install_directory/SUNWspro/docs/ja/index.html にあるマニュアルの索引ページからアクセスできる Compiler Collection IDE オプション Readme を参照してください。

インストーラのローカル表示とリモート表示の選択

グラフィカルユーザーインタフェースインストーラまたはコマンド行インストーラを使用した Sun ONE Studio 8 ソフトウェアのインストールでは、インストーラをローカル表示またはリモート表示することができます。

- **ローカル表示。** ソースコンピュータとディスプレイコンピュータが同じです。製品 CD-ROM またはダウンロードしたファイルが存在し、インストーラを実行するコンピュータに、インストーラウィンドウやコマンド行インストーラを表示します。ローカル表示を使ってインストールを行う場合、16 ページの「GUI インストーラの使い方」または 21 ページの「コマンド行インストーラの使い方」に進みます。

- **リモート表示。**ソースコンピュータとディスプレイコンピュータが別々です。ソースコンピュータに製品 **CD-ROM** またはダウンロードしたファイルをセットして、インストーラを実行します。ディスプレイコンピュータではインストーラウィンドウやコマンド行インストーラを表示します。リモート表示を使ってインストールを行う場合は、11 ページの「リモート表示によるインストールの準備」 または 12 ページの「NFS マウントファイルシステムでのリモート表示によるインストールの準備」の手順を実行します。

リモート表示によるインストールの準備

リモート表示を使ってインストールを行う場合、次の手順に従ってください。

1. ディスプレイコンピュータで、コマンド行に次のコマンドを入力し、クライアントから X サーバーにアクセスできるようにします。

```
% xhost + source-computer-name
```

source-computer-name には、ソースコンピュータ (製品 CD-ROM またはダウンロードしたファイルを含むコンピュータ) で `/usr/bin/hostname` コマンドを実行したときに出力される名前を入力します。

2. 次のコマンドを入力して、ソースコンピュータにログインし、スーパーユーザー (root) になります。

```
% rlogin source-computer-name -l rootname  
Password: root-password
```

3. ソースコンピュータで、ディスプレイコンピュータに接続されたモニターを表示先に設定します。

C シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# setenv DISPLAY display-computer-name:0.0
```

Bourne シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# DISPLAY=display-computer-name:0.0  
# export DISPLAY
```

Korn シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# export DISPLAY=display-computer-name:0.0
```

display-computer-name には、ディスプレイコンピュータで `/usr/bin/hostname` コマンドを実行したときに表示される名前を入力します。

4. 16 ページの「GUI インストーラの使い方」または21 ページの「コマンド行インストーラの使い方」に進みます。

NFS マウントファイルシステムでのリモート表示によるインストールの準備

NFS マウントファイルシステムに対する書き込み権がある場合は、リモート表示を使用してインストールを行うことができます。問題が発生した場合の解決方法については、第4章の49ページの「NFS マウントファイルシステムでインストールが失敗した場合」を参照してください。

注 – この方法でのインストールを選択すると、すべてのファイルが NFS マウントファイルシステムの `nobody` によって所有されて、ディレクトリの所有者を知ることが難しくなります。また、アンインストーラはローカルマシンにあるため、製品をアンインストールする場合は、このローカルマシンを使用してアンインストーラを実行する必要があります。

次の手順を実行して、NFS マウントファイルシステムでのリモート表示を使ってインストールを行う準備をしてください。

ソースコンピュータの準備

1. 次のコマンドを入力して、スーパーユーザー (root) になります。

```
% su
Password: root-password
```

注 - 次の例では、CD-ROM 名の `studiocc_8_sparc` を使用しています。製品の CD-ROM 名を `studiocc_8_sparc` の代わりに使用してください。製品ファイルを電子ダウンロードした場合は、ダウンロードしたディレクトリ名を `studiocc_8_sparc` に使用してください。電子ダウンロードしたファイルからインストールする場合は、すべてのファイルをソースマシンのダウンロードディレクトリで解凍してから、インストールを進める必要があります。

2. 次の行を `/etc/dfs/dfstab` ファイルに追加して、製品イメージを NFS ファイルシステムとして共有してください。

```
share -F nfs -o ro /cdrom/studiocc_8_sparc
```

3. 次のように入力して、ソースコンピュータが NFS サーバーであることを確認します。

```
# ps -ef | grep nfsd
```

次の例に示すような画面出力が表示されたら、nfsd は実行されています。

```
root 237 1 17 Jun 04 ?0:00 /usr/lib/nfs/nfsd -a 16
```

前の例に示したような画面出力が表示されない場合は、次のように入力して nfsd を開始します。

```
# /etc/init.d/nfs.server start  
# ps -ef | grep nfsd
```

前の例に示したような画面出力が表示されます。もし表示されない場合は、システム管理者またはご購入先に連絡してください。

nfsd が実行されている場合、製品イメージを使用できるようにするには、次のように入力します。

```
# /usr/sbin/shareall
```

4. 次のように入力して、ソースコンピュータが製品ディレクトリをエクスポートすることを確認します。

```
# /usr/sbin/dfshares
```

次の例に示すような画面出力が表示されます。

RESOURCE	SERVER	ACCESS	TRANSPORT
server-name:product-location	server-name	-	-

ディスプレイコンピュータの準備

1. コマンド行に次のコマンドを入力して、クライアントから X サーバーにアクセスできるようにします。

```
% /usr/openwin/bin/xhost + source-computer-name
```

source-computer-name には、ソースコンピュータで `/usr/bin/hostname` コマンドを実行したときに表示される名前を入力します。

2. 次のコマンドを入力して、スーパーユーザー (root) としてログインします。

```
% su  
Password: root-password
```

3. 次のコマンドを入力して、新規ディレクトリを作成します。

```
# mkdir /install-directory
```

ここで、*install-directory* は、製品をインストールするディレクトリを示します。

4. 次のコマンドを入力して製品ファイルをマウントします。

```
# mount source-computer:/cdrom/studiocc_8_sparc /install-directory
```

5. 次のコマンドを入力して、手順 3 で作成したディレクトリに移動します。

```
# cd /install-directory
```

6. ディスプレイを、使用しているモニターに設定します。

C シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# setenv DISPLAY source-computer-name:0.0
```

Bourne シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# DISPLAY=source-computer-name:0.0  
# export DISPLAY
```

Korn シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# export DISPLAY=source-computer-name:0.0
```

GUI インストーラの使い方

ここでは、製品 CD-ROM を使用してグラフィカルユーザーインターフェースインストーラを起動し、Sun ONE Studio 8, Compiler Collection ソフトウェアとシリアル番号をインストールする方法を説明します。電子ダウンロードで製品を入手する場合、ダウンロード Web サイトの指示に従ってファイルをダウンロードし、インストーラを起動してください。

注 – ソフトウェアのインストールに pkgadd コマンドを使用することは避けてください。提供されているインストーラを使用してください。

1. リモート表示を使用してインストールするかどうかを決めます。詳細については、10 ページの「インストーラのローカル表示とリモート表示の選択」を参照してください。
2. スーパーユーザー (root) になっていない場合は、次のように入力してスーパーユーザーになります。

```
% su  
Password: root-password
```

3. CD-ROM ドライブに CD-ROM を挿入します。

製品のインストーラが起動します。

インストーラが起動しない場合、または Solaris™ 9 オペレーティング環境を使用している場合は、自動実行機能が無効になっているか、使用しているシステムがこの機能に対応していません。その場合、次のどちらかの方法でインストーラを起動します。

- ファイルマネージャウィンドウで、インストーラのアイコンをダブルクリックします。
- 次のコマンドを入力します。

```
# /cdrom/studiocc_8_sparc/installer
```

製品のインストール手続きが始まり、開始画面が表示されます。

注 – これはマルチ言語 CD-ROM です。オペレーティングシステムが正しい言語を認識しない場合は、インストーラを起動するときに、`-locales` オプションを付けて、英語であれば `en`、日本語であれば `ja` を使用します。次に例を示します。`/cdrom/studiocc_8_sparc/installer -locales en`

4. 開始画面で「次へ」をクリックします。

「初期化中」区画が表示されます。初期化が終わると、「バイナリコードおよびライセンス契約書」区画が表示されます。

5. 「バイナリコードライセンス契約書」区画で「同意する」をクリックします。

「同意しない」を選択した場合、インストールを続行できません。

6. 「次へ」をクリックし、「コンポーネントの選択」区画に進みます。

7. 「コンポーネントの選択」区画で、各製品のインストール形式を選択します。

- 「選択しない」を選択した場合、該当する製品はインストールされません。
- 「デフォルトインストール」を選択した場合、該当する製品のすべてのコンポーネントと、それらのコンポーネントに関連するすべてのオンラインドキュメントがインストールされます。
- 「カスタムインストール」を選択した場合、インストールするサブコンポーネントを選択できます (手順 11)。

注 - 「Solaris patches」に対してデフォルトインストールを選択すると、Sun ONE Studio 8, Compiler Collection ソフトウェアに必要なパッチがすべてインストールされます。これらのパッチについては、付録 B を参照してください。これらのパッチがすでにインストールされている場合、必要なパッチを再びインストールしてもシステムの状態が古いものに戻ってしまうことはありません。

8. 「次へ」をクリックし、「インストールディレクトリの選択」区画に進みます。

9. ソフトウェアのインストールディレクトリを /opt から変更するかどうかを決定します。

新リリースの Sun ONE Studio を旧リリースの Sun ONE Studio や Forte Developer と同じコンピュータにインストールする場合、7 ページの「旧リリースの Sun ONE Studio と Forte Developer のサポート」を参照してください。

- ソースコンピュータの /opt ディレクトリにインストールする場合、「次へ」をクリックします。ソースコンピュータの /opt ディレクトリに旧リリースの Sun ONE Studio または Forte Developer ソフトウェアがすでにインストールされている場合は、別のインストールディレクトリを選択する必要があります。
- ソースコンピュータの /opt 以外のディレクトリにインストールする場合、テキストフィールドに新しいインストール先を入力するか、ブラウズ機能を使って新しいインストール先を選択します。選択したディレクトリへの書き込み権限が与えられていない場合、権限を変更するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。権限を変更し、選択したディレクトリへの書き込みを許可しないと、インストールを続行できません。ディレクトリ権限の変更については、chmod(1) のマニュアルページを参照してください。

10. インストールディレクトリを入力したら、「次へ」をクリックします。

「コンポーネントの選択」区画で「カスタムインストール」を選択した製品がある場合、それらの製品ごとに「サブコンポーネントの選択」区画が表示されます。「カスタムインストール」を選択した製品がない場合、手順 12 に進みます。

11. デフォルトでは、すべてのサブコンポーネントがインストールされます。インストールしないサブコンポーネントの選択を解除します (チェックボックスをクリックしてチェックマークを消します)。インストールするコンポーネントのチェックマークだけを残して、「次へ」をクリックします。

注 - 以前にインストールしたシリアル番号を使用して、同じインストールディレクトリに追加製品をインストールする場合、そのインストールディレクトリにすでにインストールされている製品は再インストールされません。

12. 「シリアル番号を入力」区画で、「60 日間の試用」ボタンをクリックして 60 日間の試用シリアル番号を生成するか、またはテキストボックスに正規ライセンスのシリアル番号を入力します。シリアル番号の確認方法については、9 ページの「製品のシリアル番号の検索」を参照してください。

13. 「次へ」をクリックしてシリアル番号をインストールします。

製品がすでにインストールされていて、正規ライセンスのシリアル番号を入力して試用シリアル番号をアップグレードしている場合には、インストーラをここで終了することができます。

14. 手順 7 で Sun ONE Studio 8 to Forte Developer 6 update 2 (FD6u2) コネクタのインストールを選択しなかった場合は、手順 15 に進んでください。コネクタのインストールを選択した場合は、「Sun ONE Studio 8 に接続する Forte Developer 6 update 2」区画が表示されます。

注 - このソフトウェアをインストールするには、Forte Developer 6 update 2 ソフトウェアがインストールされている必要があります。

- a. インストール済みの Forte Developer 6 update 2 ソフトウェアのディレクトリパスが正しく表示されていることを確認します。
 - b. 「次へ」をクリックし、作業を続行します。
15. インストーラによって十分なディスク容量があるかどうかチェックされ、「インストールの準備完了」区画が表示されます。
 16. 「インストールの準備完了」区画に、インストールする製品が表示されていることを確認します。
 - インストールする製品が表示されている場合、「インストール開始」をクリックします。

- インストールする製品を追加したい場合、「戻る」をクリックして「コンポーネントの選択」区画に戻ります。この区画で選択を行い、「次へ」をクリックすると、「インストールの準備完了」画面に戻ります。

「インストール中」区画にインストールの進行状況を示すグラフが表示されます。インストールが完了すると、「インストールの一覧」区画が表示されます。

17. 製品のインストールログファイルを参照したい場合、「インストールの一覧」区画で該当する製品の「詳細」ボタンをクリックします。
18. 「終了」をクリックし、Sun ONE Studio 8 ソフトウェアのインストールを終了します。
19. CD-ROM ドライブから CD-ROM を取り出します。
20. (オプション) リモート表示を使用してインストールを実行した場合は、ディスプレイコンピュータで次のコマンドを入力し、クライアントアクセスを不能にします。

```
# xhost - source-computer-name
```

21. 次のコマンドを入力して、ソースコンピュータでスーパーユーザーを終了します。

```
# exit
```

22. Sun ONE Studio Compiler Collection ツールとマニュアルページへのアクセスを設定するには、28 ページの「開発ツールとマニュアルページへのアクセスの設定」の手順に従って、PATH 変数と MANPATH 変数を設定します。
23. (オプション) Sun ONE Studio 8 to Forte Developer 6 update 2 コネクタをインストールした場合は、このコネクタを使用するために必要な手順について、</install-directory/SUNWspro/docs/ja/index.html> のマニュアルの索引ページからアクセスできる『Compiler Collection IDE オプション Readme』を参照してください。

コマンド行インストーラの使い方

ここでは、コマンド行インタフェースを使用して Sun ONE Studio 8, Compiler Collection ソフトウェアとシリアル番号をインストールする方法について説明します。

注 – ソフトウェアのインストールに `pkgadd` コマンドを使用することは避けてください。提供されているインストーラを使用してください。

1. リモート表示を使用してインストールするかどうかを決めます。詳細については、10 ページの「インストーラのローカル表示とリモート表示の選択」を参照してください。
2. スーパーユーザー (root) になっていない場合は、次のように入力します。

```
% su
Password: root-password
```

3. CD-ROM ドライブに CD-ROM を挿入します。

GUI インストーラが起動した場合は、「終了」をクリックしてインストーラを終了します。

4. ダウンロードディレクトリから、次のコマンドを入力して、コマンド行のインストールを開始します。

```
# /cdrom/studiocc_8_sparc/installer -nodisplay
```

インストーラをバックグラウンドで実行しないでください。

注 – これはマルチ言語 CD-ROM です。オペレーティングシステムが正しい言語を認識しない場合は、インストーラを起動するときに、`-locales` オプションを付けて、英語であれば `en`、日本語であれば `ja` を使用します。次に例を示します。`/cdrom/studiocc_8_sparc/installer -nodisplay -locales en`

5. 起動メッセージが表示されます。Enter キーを押し、作業を続行します。

バイナリコードライセンス契約書が表示されます。

注 – キーボードによっては、Enter キーは Return キーと同じです。インストール中にデフォルトの選択項目を確定するには、Enter キーを押します。

6. バイナリコードライセンス契約書を読み、プロンプトで「同意する」と入力し、Enter キーを押して作業を継続します。

「同意しない」と入力した場合、インストールを続行できません。

7. Sun ONE Studio 8 の製品リストが表示されます。各製品のインストールオプションがあらかじめ選択されています。

製品のインストールオプションを変更するには、製品に対応する番号 (0 ~ 6) を入力して、手順 8 に進みます。すべての製品でデフォルトインストールを受け入れる場合は、Enter キーを押して手順 10 に進みます。

注 – 「Solaris patches」に対してデフォルトインストールを選択すると、Sun ONE Studio 8, Compiler Collection ソフトウェアに必要なパッチがすべてインストールされます。これらのパッチについては、付録 B を参照してください。これらのパッチがすでにインストールされている場合、必要なパッチを再びインストールしてもシステムの状態が古いものに戻ってしまうことはありません。

8. 選択した製品のインストールのタイプを選択します。

- インストールを行わない場合は **1** を入力します。「No Install」では、製品が選択解除され、その製品はインストールされません。
- デフォルトインストールを行う場合は **2** を入力します。「Default Install」では、すべてのコンポーネントとその製品に関連するオンラインマニュアルがインストールされます。
- カスタムインストールを行う場合は **3** を入力します。「Custom Install」では、インストールするコンポーネントを選択できます (手順 12)。

インストーラは更新された製品リストを表示します。

9. インストールする別の製品を選択または選択解除するには、その番号を入力して手順 8 に戻ります。製品とそのインストールのタイプを選択したら、7 と入力して、手順 10 に進みます。

10. インストール先を指定します。

- ソースコンピュータの /opt ディレクトリにインストールする場合、Enter キーを押します。ソースコンピュータの /opt ディレクトリに旧リリースの Sun ONE Studioまたは Forte Developer ソフトウェアがすでにインストールされている場合は、別のインストールディレクトリを選択する必要があります。
- 別のディレクトリを選択したい場合、そのディレクトリの名前を入力します。選択したディレクトリへの書き込み権限が与えられていない場合、権限を変更するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。権限を変更し、選択したディレクトリへの書き込みを許可しないと、インストールを続行できません。ディレクトリ権限の変更については、chmod(1) のマニュアルページを参照してください。

11. 手順 8 において製品のカスタムインストールを選択した場合、コンポーネントの番号を入力した後に Enter キーを押して、インストールするコンポーネントを選択または選択解除します。選択作業が完了したら、0 を入力して Enter キーを押します。

12. 「60 日間の試用シリアル番号」を選択してシリアル番号を生成するか、または正規ライセンスのシリアル番号を直接入力します。シリアル番号の確認方法については、9 ページの「製品のシリアル番号の検索」を参照してください。

製品がすでにインストールされていて、正規ライセンスのシリアル番号を入力して試用シリアル番号をアップグレードしている場合には、インストーラをここで終了することができます。

13. Forte Developer 6 update 2 コネクタをインストールする場合は、Forte Developer 6 update 2 ソフトウェアのインストールパスが正しいことを確認してください。

注 – このソフトウェアをインストールするには、Forte Developer 6 update 2 ソフトウェアがインストールされている必要があります。

a. パスが正しくない場合は、正しいパスを入力します。

b. Enter キーを押し、作業を続行します。

14. インストーラによりディスク容量がチェックされ、不足している場合は警告が発せられます。

確認のために、インストールする製品とコンポーネントの一覧が表示されます。

15. 製品とコンポーネントの一覧を確認し、次のいずれかの作業を行います。

- インストールを続行するには、**1** を入力します。
- 手順 5 からやり直すには、**2** を入力します。
- インストールを中止するには、**3** を入力します。

1 を入力するとインストールが始まり、インストールの進行状況を示すグラフが表示されます。

16. インストールが完了した場合、製品に対応する番号を入力すると、その製品のログファイルを確認できます。ログファイルの確認が終了したら、完了の番号を入力します。
17. CD-ROM ドライブから CD-ROM を取り出します。
18. (オプション) リモート表示を使用してインストールを実行した場合は、ディスプレイコンピュータで次のコマンドを入力し、クライアントアクセスを不能にします。

```
# xhost - source-computer-name
```

19. 次のコマンドを入力して、ソースコンピュータでスーパーユーザーを終了します。

```
# exit
```

20. Sun ONE Studio Compiler Collection ツールとマニュアルページへのアクセスを設定するには、28 ページの「開発ツールとマニュアルページへのアクセスの設定」の手順に従って、PATH 変数と MANPATH 変数を設定します。
21. (オプション) Sun ONE Studio 8 to Forte Developer 6 update 2 コネクタをインストールした場合は、このコネクタを使用するために必要な手順について、</install-directory/SUNWsprow/docs/ja/index.html> のマニュアルの索引ページからアクセスできる『Compiler Collection IDE オプション Readme』を参照してください。

バッチインストーラの使い方

Sun ONE Studio Compiler Collection ソフトウェア、Sun PerformanceLibrary™ ソフトウェア、または Sun ONE Studio Source Distribution ソフトウェアは、バッチインストーラによってデフォルトでのインストールを行うことができます。

注 – ソフトウェアのインストールに `pkgadd` コマンドを使用することは避けてください。提供されているインストーラを使用してください。

バッチインストールを行うには、次の手順を実行します。

1. リモート表示を使用してインストールするかどうかを決めます。詳細については、10 ページの「インストーラのローカル表示とリモート表示の選択」を参照してください。
2. スーパーユーザー (root) になっていない場合は、次のように入力します。

```
% su
Password:root-password
```

3. 次のコマンドを使用してバッチインストーラを実行します。

```
batch_installer [-s serial number] [-d dirname | -R root-path] [-h]
```

注 – コマンド `batch_installer_perflib` を使用して、Sun Performance Library ソフトウェアをインストールします。コマンド `batch_installer_src` を使用して、Sun ONE Studio Source Distribution ソフトウェアをインストールします。

batch_installer コマンドで使用可能なオプションについては、表 2-1 を参照してください。

表 2-1 batch_installer のオプションとオプションの説明

オプション名	オプションの説明
-s <i>serial number</i>	正規ライセンスのシリアル番号をインストールします。このオプションを使用しないと、デフォルトで 60 日間の試用ライセンスのシリアル番号が生成されます。
-d <i>dirname</i>	ディレクトリ <i>dirname</i> にインストールします。
-R <i>root-path</i>	ルートシステムと製品の絶対パスを指定します。このオプションは JumpStart インストールで使用して、ルートディレクトリを設定します。
-h	batch_installer コマンドの使用法情報を表示します。

batch_installer コマンドとオプションは、表 2-2 のシナリオで使用できます。

表 2-2 batch_installer コマンドとオプションを使用したインストールシナリオ

シナリオ	入力するコマンド
デフォルトディレクトリにインストールして、デフォルトで 60 日間の試用ライセンスのシリアル番号を生成します。	#./batch_installer
正規ライセンスのシリアル番号によってデフォルトディレクトリにインストールします。	#./batch_installer -s <i>serial number</i>
デフォルトディレクトリ以外のディレクトリにインストールします。	#./batch_installer -d <i>dirname</i>
ルートインストールを変更してインストールします。	#./batch_installer -R <i>/a/opt</i>

4. 表 2-2 から適切なインストールシナリオを選択して、`batch_installer` コマンドを実行します。たとえば、60 日試用ライセンスのシリアル番号を生成するオプションを使用して、デフォルト以外のディレクトリにインストールするには、次のように入力します。

```
# /cdrom/studiocc_8_sparc/batch_installer -d /dirname
```

バイナリコードライセンス契約書が表示されて、ディスクの空き容量が十分かどうかチェックされます。インストールが続行されて、インストールが完了するとプロンプトに戻ります。

5. (オプション) リモート表示を使用してインストールを実行した場合は、ディスプレイコンピュータで次のコマンドを入力し、クライアントアクセスを不能にします。

```
% xhost - source-computer-name
```

6. 次のコマンドを入力して、ソースコンピュータでスーパーユーザーを終了します。

```
# exit
```

7. `PATH` 変数と `MANPATH` 変数を設定します。この手順については、28 ページの「開発ツールとマニュアルページへのアクセスの設定」を参照してください。

Solaris JumpStart インストーラの使い方

Solaris™ 9 オペレーティング環境 (SPARC® プラットフォーム版) および Solaris™ 9 オペレーティング環境 (x86 プラットフォーム版) の Solaris JumpStart™ インストーラを使用すると、ソフトウェアのインストールプロセスを自動化して、Sun ONE Studio Compiler Collection ソフトウェアを複数のシステムにインストールすることができます。次に、JumpStart のインストール手順の概要を示します。JumpStart インストールの詳細については、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。

注 – 次の手順で、コマンド行の例で使用される `cdrom_path` には、ダウンロードディレクトリの名前を置換してください。

1. ソースマシンの `swap` パーティションと `/opt` パーティションの両方に 1G バイトを超えるディスク容量があることを確認します。
2. ダウンロードしたファイルを `$SI_CONFIG_DIR` ディレクトリにコピーします。
3. ソースマシンに常駐する最終スクリプトを作成します。このファイルには、次の情報を入れる必要があります。

```
#!/bin/sh
cd $SI_CONFIG_DIR/cdrom_path
./batch_installer -R /a
```

注 - `batch_installer -d` オプションは、JumpStart インストールでは動作しません。

使用可能な `batch_installer` オプションについては、25 ページの「バッチインストーラの使い方」を参照してください。

JumpStart インストールプロセスを完了する方法については、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。

開発ツールとマニュアルページへのアクセスの設定

Sun ONE Studio Compiler Collection の製品コンポーネントとマニュアルページは、`/usr/bin/` と `/usr/share/man` の各システムディレクトリにはインストールされません。そのため、Sun ONE Studio Compiler Collection ソフトウェアを使用できるようにするには、環境変数 `PATH` および `MANPATH` を修正する必要があります。

注 - この節で示しているパスは、Sun ONE Studio 8 パッケージがデフォルトの `/opt` ディレクトリにインストールされていることを前提にしています。ソフトウェアを別のディレクトリにインストールした場合、例の中の `/opt` を該当するディレクトリに置き換えてください。

PATH 変数と MANPATH 変数の設定は、C シェルを使用している場合はホームディレクトリの `.cshrc` ファイルで、**Bourne** シェルや **Korn** シェルを使用している場合はホームディレクトリの `.profile` ファイルで行います。

PATH および MANPATH 環境変数の詳細については、SunOS™ マニュアルページの `csh(1)` に C シェルの PATH 変数に関する説明、`sh(1)` マニュアルページに **Bourne** シェルの PATH 変数に関する説明、`ksh(1)` マニュアルページに **Korn** シェルの PATH 変数に関する説明があります。また、MANPATH 変数の説明はマニュアルページ `man(1)` にあります。

Sun ONE Studio Compiler Collection ツールにアクセスするための PATH 環境変数の設定

Sun ONE Studio Compiler Collection のコマンドを使用するには、PATH 環境変数に `/opt/SUNWspro/bin` というパスを含める必要があります。PATH 環境変数を設定する必要があるかどうかを確認するには、次の手順に従ってください。

1. 次のように入力し、PATH 変数の現在の値を表示します。

```
% echo $PATH
```

2. 出力を参照し、パス文字列に `/opt/SUNWspro/bin/` というパスが含まれているかどうかを確認します。

- このパスが含まれている場合、PATH 変数は Sun ONE Studio Compiler Collection のツールにアクセスできるように設定されています (パス `/opt` は別のインストールパスに置き換えることができます)。
- このパスが含まれていない場合、次の手順に従って PATH 変数を設定します。

3. パス `/opt/SUNWspro/bin/` を PATH 環境変数に追加します。

- C シェルを使用している場合、ホームディレクトリの `.cshrc` ファイルを編集し、このパスを追加します。
- Bourne シェルまたは Korn シェルを使用している場合、ホームディレクトリの `.profile` ファイルを編集し、このパスを追加します。

Sun ONE Studio Compiler Collection のマニュアルページにアクセスするための MANPATH 環境変数の設定

man コマンドを使用して Sun ONE Studio Compiler Collection マニュアルページにアクセスするには、MANPATH 環境変数に /opt/SUNWspro/man というパスを含める必要があります。MANPATH 環境変数を設定する必要があるかどうかを確認するには、次の手順に従ってください。

1. 次のように入力し、dbx(1) マニュアルページを表示します。

```
% man dbx
```

2. 出力を確認します。

man dbx で dbx(1) のマニュアルページが見つからないか、インストールしたソフトウェアとは別のバージョンのマニュアルページが表示された場合、MANPATH 変数が正しく設定されていません。その場合、次の手順に従って MANPATH 変数を設定します。

3. パス /opt/SUNWspro/man/ を MANPATH 環境変数に追加します。

- C シェルを使用している場合、ホームディレクトリの .cshrc ファイルを編集し、このパスを追加します。
- Bourne シェルまたは Korn シェルを使用している場合、ホームディレクトリの .profile ファイルを編集し、このパスを追加します。

環境変数の変更

この節では、Sun ONE Studio 8 のツールとマニュアルページのパスを適切な環境変数に永久的に追加し、Sun ONE Studio 8 のすべてのコンポーネントを常に使えるようにする手順を説明します。ここで示しているコマンドをシェルプロンプトから入力し、そのシェルだけで一時的に使えるようにすることもできます。

1. Sun ONE Studio Compiler Collection ソフトウェアを PATH 変数および MANPATH 変数に追加します。

注 – 各ユーザーがインストールされたソフトウェアを使用できるようにするには、PATH 変数と MANPATH 変数を設定して、Sun ONE Studio Compiler Collection ソフトウェアのパスを各ユーザーの環境に組み込む必要があります。

- C シェル (csh) を使用している場合、まず MANPATH 変数が設定されているかどうかを確認します。シェルプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
% echo $MANPATH
```

「未定義の変数 (Undefined variable)」という応答が返されたり (C シェル)、空白行が表示された場合 (Bourne シェルまたは Korn シェル)、MANPATH 変数は設定されていません。マニュアルディレクトリのパスが表示された場合、この変数はすでに設定されています。

次にホームディレクトリの .cshrc ファイルを編集し、ファイルの末尾に次の行を追加します。

```
set path=(/opt/SUNWspro/bin $path)
```

MANPATH 変数が設定されていない場合、さらに次の行を追加します。

```
setenv MANPATH /opt/SUNWspro/man:/usr/share/man
```

MANPATH 変数が設定済みの場合は、代わりに次の行を追加します。

```
setenv MANPATH /opt/SUNWspro/man:$MANPATH
```

- Bourne シェル (sh) または Korn シェル (ksh) を使用している場合、ホームディレクトリの .profile ファイルを編集し、次の行を追加します。

```
PATH=/opt/SUNWspro/bin${PATH:+:}${PATH}  
MANPATH=/opt/SUNWspro/man:${MANPATH:=/usr/share/man}
```

これらの 2 行にスペースを入力しないでください。

2. 手順 1 で修正した .cshrc ファイルまたは .profile ファイルを保存します。

3. 次のコマンドを実行し、シェルを初期化し直します。

C シェルの場合

```
source ~/.cshrc
```

Bourne シェルまたは Korn シェルの場合

```
. ~/.profile
```

Sun ONE Studio 8, Compiler Collection のマニュアルの参照

Sun ONE Studio Compiler Collection ソフトウェアのマニュアルには、次の場所からアクセスできます。

- リリースノート <http://docs.sun.com> から参照できます。リリースノートの情報は、すべての `readme` ファイルの情報を更新して拡張するものです。
- **Compiler Collection** のマニュアル製品のマニュアルページ、HTML 形式の `readme`、およびマニュアルは、`/opt/SUNWspro/docs/ja/index.html` から参照することができます。
- **Compiler Collection** 開発者リソースポータル : **Compiler Collection** のマニュアルについては、**Compiler Collection** 開発者リソースポータルのマニュアルの索引を参照してください。ブラウザで <http://www.sun.com/developers/studio> をポイントして、「**Compiler Collection**」をクリックして「**Documentation**」をクリックしてください。このポータルには、技術的な記事や知識ベース項目も含まれています。

注 – **Compiler Collection** ソフトウェアがデフォルトの `/opt` 以外のディレクトリにインストールされている場合は、システム管理者に実際のパスをお尋ねください。

これで、Sun ONE Studio 8, Compiler Collection ソフトウェアを使用する準備ができました。

Compiler Collection ソフトウェアの登録

インストールを終了したら、ご使用の製品を Sun に登録して、更新や新製品に関する情報を受け取ることができます。製品登録ページ

(<https://www.sun.com/cgi-bin/software/sundev/prodreg.cgi?scc>) を参照してください。

第3章

Sun ONE Studio 8 ソフトウェアのアンインストール

この章では、インストールされている Sun ONE Studio 8 ソフトウェア製品および関連パッチをアンインストールする方法について説明します。

ソフトウェアのインストール完了後、アンインストーラが自動的に作成されます。このアンインストーラを使用して Sun ONE Studio 8 ソフトウェアを削除する方法は 2 種類あります。

- GUI (グラフィカルユーザーインターフェース) アンインストーラを使用します。この手順については、38 ページの「GUI アンインストーラの使い方」を参照してください。
- グラフィカルユーザーインターフェース機能が使用できない場合、コマンド行からアンインストールを行います。この手順については、40 ページの「コマンド行アンインストーラの使い方」を参照してください。

注 – ソフトウェアのアンインストールに `pkgrm` コマンドを使用することは避けてください。提供されているアンインストーラを使用してください。

Sun ONE Studio 8 のソフトウェア名と、アンインストールで使用するアンインストーラ `.class` ファイル名の関係を表 3-1 に示します。

表 3-1 ソフトウェア名とアンインストーラ .class ファイル名の関係

ソフトウェア名	アンインストーラ .class ファイル名
Sun ONE Studio 8 コンパイラ	uninstall_Compilers.class
Sun ONE Studio 8 ソフトウェア によってインストールされた パッチ	uninstall_Solaris_patches.class
Sun パフォーマンスライブラリ 8 ソース配布	uninstall_Sun_Performance_Library.class uninstall_Source_Distribution.class
Sun ONE Studio 8 ツール	uninstall_Tools.class
Sun ONE Studio 8, Compiler Collection のマニュアル	uninstall_Documentation.class
Sun ONE Studio 8 Connector to Forte Developer 6 update 2	uninstall_Connector_to_Forte_Developer_ 6_update_2.class

アンインストーラのローカル表示とリモート表示 の選択

Sun ONE Studio 8 ソフトウェアのアンインストールでは、アンインストーラをローカル表示またはリモート表示することができます。

ローカル表示を使ってアンインストールを行う場合、38 ページの「GUI アンインストーラの使い方」または 40 ページの「コマンド行アンインストーラの使い方」に進みます。リモート表示を使ってアンインストールを行う場合、37 ページの「リモート表示によるアンインストールの準備」の手順を実行し、その後で 38 ページの「GUI アンインストーラの使い方」または 40 ページの「コマンド行アンインストーラの使い方」に進みます。

リモート表示によるアンインストールの準備

リモート表示を使ってアンインストールを行う場合、次の手順に従ってください。

1. ディスプレイコンピュータで、コマンド行に次のコマンドを入力し、クライアントから X サーバーにアクセスできるようにします。

```
% xhost + source-computer-name
```

source-computer-name には、ソースコンピュータ (アンインストーラの実行先のコンピュータ) で `/usr/bin/hostname` コマンドを実行したときに出力される名前を入力します。

2. 次のコマンドを入力して、ソースコンピュータにログインし、スーパーユーザー (root) になります。

```
% rlogin source-computer-name -l rootname  
Password: root-password
```

3. ソースコンピュータで、ディスプレイコンピュータに接続されたモニターを表示先に設定します。

C シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# setenv DISPLAY display-computer-name:0.0
```

Bourne シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# DISPLAY=display-computer-name:0.0  
# export DISPLAY
```

Korn シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# export DISPLAY=display-computer-name:0.0
```

display-computer-name には、ディスプレイコンピュータ (アンインストーラの表示先のコンピュータ) で `/usr/bin/hostname` コマンドを実行したときに表示される名前を入力します。

4. 38 ページの「GUI アンインストーラの使い方」 または 40 ページの「コマンド行アンインストーラの使い方」に進みます。

GUI アンインストーラの使い方

注 – アンインストーラは、削除したい製品ごとに別々に実行する必要があります。

アンインストーラを実行するには、次の手順を実行します。

1. スーパーユーザー (root) になっていない場合は、次のように入力します。

```
% su
Password:root-password
```

2. 次のように入力し、製品ディレクトリに移動します。

```
# cd /var/sadm/prod/com.sun.sls8_compiler_collection_fcs
```

3. `ls -l` と入力してアンインストーラ `.class` ファイル名の一覧を表示するか、または表 3-1 を参照して、アンインストールするソフトウェアのアンインストーラ `.class` ファイル名を調べます。
4. 手順 3 で調べたアンインストーラ `.class` ファイル名を使用し、次のコマンドでアンインストーラを起動します。

注 - これらのコマンドを入力するときに、ファイル名の `.class` 拡張子は付けなくてください。

```
# /usr/bin/java uninstall_uninstaller-class-file-name
```

たとえば、コンパイラを削除するには次のようにします。

```
# /usr/bin/java uninstall_Compilers
```

アンインストールウィンドウが表示されます。開始画面にアンインストールする製品が表示されます。

5. 開始画面で「次へ」をクリックし、アンインストール作業を続行します。

「アンインストール形式を選択してください」区画が表示されます。

6. 「アンインストール形式を選択してください」区画で、アンインストール形式を選択します。

製品のコンポーネントをすべてアンインストールする場合、「全体」を選択します。

「次へ」をクリックし、手順 8 に進みます。

製品の一部のコンポーネントだけをアンインストールする場合、「部分」を選択します。「次へ」をクリックし、手順 7 に進みます。

7. 「コンポーネントの選択」区画で、アンインストールしたくないコンポーネントの選択を解除します (チェックボックスをクリックしてチェックマークを消します)。「次へ」をクリックし、作業を続行します。

8. 「アンインストールの準備完了」区画で、「アンインストール開始」をクリックします。

「アンインストール中」区画にアンインストールの進行状況を示すグラフが表示されます。アンインストールが完了すると、「アンインストールの一覧」区画が表示されます。「詳細」ボタンをクリックし、ログファイルを参照します。

9. 「終了」をクリックしてアンインストーラを終了します。

10. (オプション) リモート表示を使用してアンインストールを実行した場合は、ディスプレイコンピュータで次のコマンドを入力し、クライアントアクセスを不能にします。

```
% xhost - source-computer-name
```

11. 次のコマンドを入力して、ソースコンピュータでスーパーユーザーを終了します。

```
# exit
```

コマンド行アンインストーラの使い方

コマンド行でソフトウェア製品を削除するには、次の手順に従ってください。

1. スーパーユーザー (root) になっていない場合は、次のように入力します。

```
% su  
Password: root-password
```

2. 次のように入力し、製品ディレクトリに移動します。

```
# cd /var/sadm/prod/com.sun.sls8_compiler_collection_fcs
```

3. `ls -l` と入力してアンインストーラ `.class` ファイル名の一覧を表示するか、または表 3-1を参照して、アンインストールするソフトウェアのアンインストーラ `.class` ファイル名を調べます。
4. 手順 3 で調べたアンインストーラ `.class` ファイル名を使用し、次のいずれかのコマンドでコマンド行アンインストーラを起動します。

注 – これらのコマンドを入力するときに、ファイル名の `.class` 拡張子は付けなくてください。

- 対話型のコマンド行アンインストーラを使って製品をアンインストールするには、次のコマンドを使用します。

```
# /usr/bin/java uninstall_uninstaller-class-file-name -nodisplay
```

たとえば、コンパイラをアンインストールするには次のようにします。

```
# /usr/bin/java uninstall_Compilers -nodisplay
```

アンインストールする製品が表示されます。手順 5に進みます。

- プロンプトを表示しないで (サイレントモードで) 製品全体をアンインストールするには、次のコマンドを使用します。

```
# /usr/bin/java uninstall_uninstaller-class-file-name -nodisplay -noconsole
```

製品がアンインストールされ、アンインストーラが終了します。手順 11に進みます。

5. Enter キーを押し、作業を続行します。

6. 製品のすべてのコンポーネントをアンインストールする場合は、1 と入力して、手順 9に進みます。

1 と入力した場合、すべてのコンポーネントが自動的に削除されます。

7. 製品の一部のコンポーネントだけをアンインストールする場合、2 と入力します。

製品のコンポーネントリストが表示されます。このリストには、アンインストールするコンポーネントを示すチェックボックスが付いています。

8. アンインストールしたくないコンポーネントがある場合、そのコンポーネントの番号を入力し、アンインストールの対象から外します。ない場合は 0 を入力します。

アンインストールするコンポーネントを示すリストが更新されます。アンインストールしないコンポーネントがほかにもある場合は、その番号を入力するか、または 0 と入力して、アンインストールを続けます。

9. アンインストールするコンポーネントの一覧が表示されます。

- 製品コンポーネントのアンインストールを開始するには、1 と入力し、手順 10に進みます。アンインストールの進行状況を示すグラフが表示されます。

- アンインストールをやり直すには、**2** と入力し、手順 5 に戻ります。
 - アンインストーラを終了するには、**3** と入力し、手順 11 に進みます。
10. アンインストールが完了した場合、製品に対応する番号を入力すると、その製品のログファイルを確認できます。確認作業が終了したら、完了の番号を入力します。
- アンインストーラが終了します。
11. (オプション) リモート表示を使用してアンインストールを実行した場合は、ディスプレイコンピュータで次のコマンドを入力し、クライアントアクセスを不能にします。

```
% xhost - source-computer-name
```

12. 次のコマンドを入力して、ソースコンピュータでスーパーユーザーを終了します。

```
# exit
```


第4章

トラブルシューティング

この章では、Sun ONE Studio Compiler Collection ソフトウェアのインストール時やアンインストール時に発生する問題に対処する方法について説明します。

シンボリックリンクを使ってアクセスされるディレクトリへのインストール

パスの一部がシンボリックリンクになっているディレクトリに、製品をインストールできます。シンボリックリンクによってアクセスされるパスへのインストールの例として、デフォルトディレクトリ /opt に十分なディスク容量がない場合があげられます。インストーラにこのシンボリックリンクを使用させ、実際のファイルシステムに製品がインストールされないようにするには、次の手順を実行する必要があります。

注 – たとえば、/opt にインストールする場合、次の手順では、/opt/SUNWspro というシンボリックリンクを作成し、そのシンボリックリンクで /export/opt/SUNWspro を指し示すことができます。例に示した名前は使用するディレクトリ名で置き換えることができます。

1. 次のコマンドを入力して、スーパーユーザー (root) になります。

```
% su
Password: root-password
```

2. 次のコマンドを入力し、既存のシンボリックリンクを保存します。

```
# mv /opt/SUNWspro /mytemp
```

3. 次のコマンドを入力し、マウントポイントとして使用する新しい /opt/SUNWspro ディレクトリを作成します。

```
# mkdir /opt/SUNWspro
```

4. 次のコマンドでターゲットディレクトリをマウントし、このディレクトリを /opt/SUNWspro として使用できるようにします。

```
# mount -F nfs localhost:/export/opt/SUNWspro /opt/SUNWspro
```

5. 製品を /opt ディレクトリにインストールします。

6. 次のコマンドを入力し、ターゲットディレクトリのマウントを解除します。

```
# umount /opt/SUNWspro
```

7. 次のコマンドを入力し、空の /opt/SUNWspro マウントポイントを削除します。

```
# rmdir /opt/SUNWspro
```

8. 手順 2 で保存しておいたシンボリックリンクを復元します。

```
# mv /mytemp /opt/SUNWspro
```

9. 次のコマンドを入力し、スーパーユーザーの権限を終了します。

```
# exit
```

製品レジストリの問題

インストール時やアンインストール時に問題が発生すると、productregistry ファイルが破壊されることがあります。Solaris Product Registry ツールを使用すると、このような問題を特定・修正できる場合があります。

インストールが失敗した場合の確認および対処法

正しくインストールされなかったパッケージがあると、Sun ONE Studio Compiler Collection ソフトウェアを使用する際に問題が起きます。たとえば、pkgadd コマンドでソフトウェアをインストールすると、productregistry ファイルが破壊されてしまいます。すべてのパッケージが正しくインストールされたかどうかを確認するには、次のようにします。

1. 次のコマンドを入力して、スーパーユーザー (root) になります。

```
% su
Password:root-password
```

2. 次のコマンドを入力し、Solaris Product Registry ツールを起動します。

```
% /usr/bin/prodreg &
```

3. ツールの左側の区画で、「登録されているソフトウェア」という見出しの下にあるリストを参照します。

製品名の隣に黄色い三角形のマークが付いている場合、その製品は正しくインストールされていません。

4. 正しくインストールされていない製品を選択し、「アンインストール」ボタンをクリックします。

「アンインストール失敗」ダイアログボックスが表示されます。

5. ダイアログボックスに表示されたメッセージを参照します。製品をアンインストールする場合は、「了解」をクリックします。

「対話式アンインストール」ダイアログボックスが表示されます。

6. 続けて表示されるダイアログボックスの指示に従い、アンインストールを完了します。

アンインストールが完了すると、製品インストーラを使って製品ソフトウェアを再インストールできます。製品のインストール手順については、第 2 章を参照してください。

アンインストールが失敗した場合の対処法

製品ファイルがすべて削除される前にアンインストーラが終了した場合、アンインストーラを実行し直しても、残りの製品ファイルは削除されません。

productregistry ファイルでは、これらの製品ファイルが削除されたと記録されるため、アンインストーラでは残りのファイルを削除できません。製品ファイルを完全に削除するには、Solaris Product Registry ツールを次のように使用します。

1. 次のコマンドを入力して、スーパーユーザー (root) になります。

```
% su
Password: root-password
```

2. 次のコマンドを入力し、Solaris Product Registry ツールを起動します。

```
# /usr/bin/prodreg &
```

3. ツールの左側の区画で、S1S8 または Sun ONE Studio 8 という文字列を含んでいる製品名をすべて選択し、「アンインストール」ボタンをクリックします。

「アンインストール失敗」ダイアログボックスが表示されます。

4. ダイアログボックスに表示されたメッセージを参照します。製品をアンインストールする場合は、「了解」をクリックします。

「対話式アンインストール」ダイアログボックスが表示されます。

5. 続けて表示されるダイアログボックスの指示に従い、アンインストールを完了します。

アンインストールが完了すると、製品インストーラを使って製品ソフトウェアを再インストールできます。製品のインストール手順については、第 2 章を参照してください。

productregistry ファイルが破壊された場合の対処法

45 ページの「インストールが失敗した場合の確認および対処法」 または 46 ページの「アンインストールが失敗した場合の対処法」の手順でインストールまたはアンインストールの失敗を修正しても、まだ問題が解決されない場合、破壊された productregistry ファイルをシステムから削除します。通常、productregistry ファイルが破壊されるのは、pkgadd コマンドや pkgrm コマンドを使ってソフトウェアのインストールやアンインストールを行おうとした場合です。

注 – productregistry ファイルを削除すると、Sun ONE Studio 8, Compiler Collection ソフトウェアのエントリと Solaris オペレーティング環境や他の製品のレジストリエントリが削除されてしまいます。まず始めに 45 ページの「インストールが失敗した場合の確認および対処法」 および 46 ページの「アンインストールが失敗した場合の対処法」 の手順を確認してから、次の手順を進めてください。

1. 次のコマンドを入力して、スーパーユーザー (root) になります。

```
% su
Password: root-password
```

2. プロンプトに次のコマンドを入力し、productregistry ファイルに移動します。

```
% cd /var/sadm/install
```

3. 次のコマンドを入力し、productregistry ファイルを削除します。

```
# rm productregistry
```

4. 次のコマンドを入力し、スーパーユーザーの権限を終了します。

```
# exit
```

productregistry ファイルの削除が完了すると、製品インストーラを使って製品ソフトウェアを再インストールできます。製品のインストール手順については、第 2 章を参照してください。

ログファイルとシリアル番号ファイル

Sun ONE Studio Compiler Collection ソフトウェアをインストールすると、インストールの記録を保存したログファイルが自動的に作成されます。

インストールログファイルの参照方法

ログファイルを参照してインストールの問題を追跡するには、次の手順を実行します。

1. プロンプトに次のコマンドを入力し、logs ディレクトリに移動します。

```
% cd /var/sadm/install/logs
```

2. 次のコマンドを入力し、ファイルを表示します。

```
% more Compilers_install.A03200125
```

ファイル拡張子は、ログファイルによって異なります。

インストールされているシリアル番号の確認方法

製品を登録するにはシリアル番号が必要です。シリアル番号を確認するには、snit ツールを使用します。

次のコマンドを入力すると、serial.dat ファイルの内容を確認して表示できます。

```
% /install-directory/SUNWspro/bin/snit -d -f  
/install-directory/SUNWspro/prod/lib/serial.dat
```

詳細については、snit(1) のマニュアルページを参照してください。snit がコマンドとして認識されない場合、28 ページの「開発ツールとマニュアルページへのアクセスの設定」の手順に従って PATH 環境変数を設定してください。

シリアル番号を忘れてしまった場合の対処法

シリアル番号を忘れてしまい、serial.dat ファイルの内容を表示することも、snit コマンドでシリアル番号を表示することもできない場合は、カスタマーサポート (<http://www.sun.co.jp/software/sundev/suncc/support.html>) に連絡してください。

リモート表示インストールによるインストール

次のトピックでは、リモート表示インストール中に発生する可能性がある問題を示します。

NFS マウントファイルシステムでインストールが失敗した場合

NFS マウントファイルシステムでインストールが失敗した場合は、そのファイルシステムに対する書き込み権があるかどうかを確認してください。書き込み権は、次の手順を実行して確認できます。NFS マウントファイルシステムでのインストールの詳細については、12 ページの「NFS マウントファイルシステムでのリモート表示によるインストールの準備」を参照してください。

1. 次のコマンドを実行して、書き込み権があるかどうかを確認します。

```
% touch /net/remote-system/opt/testfile
```

エラーメッセージが表示された場合、書き込み権はありません。次に例を示します。

```
% touch /net/harker/opt/testfile
touch:/net/harker/opt/testfile を作成できません。
```

2. 書き込み権を持つ別のインストールディレクトリを選択するか、またはファイルシステムのアクセス権を変更するようにシステム管理者に依頼してください。

リモート表示インストーラ中に ToolTalk ソフトウェアセッションを初期化する方法

グラフィカルユーザーインタフェースのインストーラがインストール中に停止した場合は、次の手順を実行して、ToolTalk™ ソフトウェアセッションを初期化することができます。

1. インストーラを終了します。
2. スーパーユーザー (root) になっていない場合は、次のように入力してスーパーユーザーになります。

```
% su  
Password: root-password
```

3. 次のコマンドを入力します。

```
# /usr/dt/bin/ttsession -c
```

4. \$DISPLAY が設定されていることを確認します。

11 ページの「リモート表示によるインストールの準備」 および 12 ページの「NFS マウントファイルシステムでのリモート表示によるインストールの準備」の各節は、リモート表示を設定する方法を説明しています。

5. 次のコマンドを入力してインストーラを起動します。

```
# /cdrom/studiocc_8_sparc/installer
```

第 2 章 の手順に従ってインストールを完了します。

バッチインストーラが停止した場合の対処法

バッチインストーラの起動時に無効なパラメータを入力すると、インストーラが停止してインストールは完了しません。一般的なエラーとしては、無効なシリアル番号を入力した、2 つの異なるディレクトリ名を指定した、またはディスク容量が不足しているときにインストーラを起動したことなどがあげられます。

パッチインストールを再起動するには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを入力してログファイルを参照して、エラーメッセージがないかを確認します。

```
% cd /var/sadm/install/logs
```

2. インストーラを停止するには、Control+C を押します。
3. パッチインストーラを使用して製品をインストールするには、第 2 章の25 ページの「パッチインストーラの使い方」を参照してください。

Sun ONE Studio 8 のコンポーネントとパッケージ

この付録では、ソフトウェア開発に使用できる Sun ONE Studio 8, Compiler Collection 製品に関する情報を示します。この付録では、各製品を構成するコンポーネントとパッケージもリストしています。

表 A-1 は、Solaris™ オペレーティング環境 (SPARC® プラットフォーム版) 用 Sun ONE Studio 8, Compiler Collection 製品パッケージのメタクラスタ構成情報をリストしています。それぞれの製品メタクラスタには、表 A-2 に示すコンポーネントが含まれています。

表 A-2 は、Solaris オペレーティング環境 (SPARC プラットフォーム版) 用 Sun ONE Studio 8, Compiler Collection 製品パッケージのコンポーネントと構成情報をリストしています。あるコンポーネントが、他のコンポーネントのパッケージ/コンポーネントリストの項目に含まれている場合があります。コンポーネント名は大文字で表記しています。たとえば、SPROLANG コンポーネントは、SPROCC コンポーネントのパッケージ/コンポーネントリストと、SPROCCC コンポーネントのパッケージ/コンポーネントリストの両方に含まれています。これは、SPROLANG コンポーネントに含まれているすべてのパッケージが、SPROCC コンポーネントと SPROCCC コンポーネントの両方に含まれていることを示しています。

表 A-3 は、Solaris™ オペレーティング環境 (x86 プラットフォーム版) 用 Sun ONE Studio 8, Compiler Collection 製品パッケージのメタクラスタ構成情報をリストしています。それぞれの製品メタクラスタには、表 A-4 に示すコンポーネントが含まれています。

表 A-4 は、Solaris オペレーティング環境 (x86 プラットフォーム版) 用 Sun ONE Studio 8, Compiler Collection 製品パッケージのコンポーネントと構成情報をリストしています。あるコンポーネントが、他のコンポーネントのパッケージ/コンポーネントリストの項目に含まれている場合があります。コンポーネント名は大文字で表記しています。たとえば、SPROLANG コンポーネントは、SPROCC コンポーネントのパッ

テージ/コンポーネントリストと、SPROCCC コンポーネントのパッケージ/コンポーネントリストの両方に含まれています。これは、SPROLANG コンポーネントに含まれているすべてのパッケージが、SPROCC コンポーネントと SPROCCC コンポーネントの両方に含まれていることを示しています。

表 A-1 Solaris SPARC プラットフォーム版用 Sun ONE Studio 8 製品パッケージのメタクラスタコンポーネント

メタクラスタの説明と		
メタクラスタ名	コンポーネント	コンポーネント名
Sun ONE Studio 8 コンパイラ SPROMCPL	Sun ONE Studio 8 コンパイラ C	SPROCC
	Sun ONE Studio 8 コンパイラ C++	SPROCCC
	Sun ONE Studio 8 コンパイラ Fortran	SPROCFOR
	レガシーライブラリをともなう Sun ONE Studio 8 コンパイラ Fortran 95	SPROCFORL
	Sun ONE Studio 8 インベントリ ファイル	SPROCFD
	GUI インタフェースサポート	SPROsvc
Sun ONE Studio 8 ツール SPROMTOOL	Sun ONE Studio 8 LockLint、製品 ソフトウェア	SPROCLKLT
	Sun ONE Studio 8 デバッグツール	SPROCDXB
	Sun ONE Studio 8 ガベージコレクタ	SPROCLGC
	Sun ONE Studio 8 パフォーマンス アナライザ	SPROCPRFA
	Sun ONE Studio 8 構築ソフトウェア	SPROCBLD
	Sun ONE Studio Demo	SPROCDemo
Sun ONE Studio マニュアル セット SPROMDOCS	Sun ONE Studio 8 マニュアル	SPROCDocs
Sun Performance Library 8SPROMPLIB	Sun ONE Studio 8 ライブラリ	SPROCPERF

表 A-1 Solaris SPARC プラットフォーム版用 Sun ONE Studio 8 製品パッケージのメタクラスタコンポーネント (続き)

メタクラスタの説明と		
メタクラスタ名	コンポーネント	コンポーネント名
Sun ONE Studio 8 Source	DWARF ライブラリ	DWSRC
Distribution SPROMSRC	Red-Black ツリーライブラリ	RDBLKSRC
	Sun ONE Studio 8 STLport	STLSRC

表 A-2 Solaris SPARC プラットフォーム版用 Sun ONE Studio 8 製品パッケージのコンポーネント

コンポーネント名	コンポーネント	パッケージ および コンポーネント リスト
Sun ONE Studio 8	共通コンポーネント	SPROLANG
コンパイラ C	Sun ONE Studio インクリメンタルリンカー	SPROILD
SPROCC	コンパイラ C	SPROcc
	共通のツール	SPROutool
	C のマニュアルページ/オンライン情報	SPROmrcc
	共通のコンパイラのマニュアルページ/オンライン情報	SPROmrcom
	C9X Math Library	SPROM9XS
	ソースブラウザのマニュアルページ/オンライン情報	SPROmrsbe
	ソースブラウザ	SPROsbe
	Sunmath ライブラリ	SPROSM
	シリアル番号インストールツールと各種ファイル	SPROCMISC
	GUI インタフェースサポート	SPROsvc
コンパイラ	コンパイラ C++	SPROcpl
C++SPROCPL	C++ ライブラリ (64 ビット)	SPROcplx

表 A-2 Solaris SPARC プラットフォーム版用 Sun ONE Studio 8 製品パッケージのコンポーネント (続き)

コンポーネント名	コンポーネント	パッケージ および コンポーネント リスト
Sun ONE Studio 8	共通コンポーネント	SPROLANG
コンパイラ C++ SPROCCC	インクリメンタルリンカー	SPROILD
	コンパイラ C++	SPROCPL
	共通のツール	SPROtool
	共通のコンパイラのマニュアルページ/オンライン情報	SPROMrcom
	C9X Math Library	SPROM9XS
	ソースブラウザのマニュアルページ/オンライン情報	SPROMrsbe
	ソースブラウザ	SPROsbe
	STLport	SPROSTLPORT
	C++ Complex Library	SPROcmpl
	C++ のマニュアルページ/オンライン情報	SPROMrcpl
	Tools.h++ 7.1	SPROTL7
	C++ の Sun ONE Studio 8 標準ライブラリ	SPROSCL
	Sunmath ライブラリ	SPROSM
	シリアル番号インストールツールと各種ファイル	SPROCMISC
	GUI インタフェースサポート	SPROsvc

表 A-2 Solaris SPARC プラットフォーム版用 Sun ONE Studio 8 製品パッケージのコンポーネント (続き)

コンポーネント名	コンポーネント	パッケージ および コンポーネント リスト
Sun ONE Studio コ ンパイラの共通コ ンポーネント SPROLANG	共通コンポーネント	SPROlang
	共通コンポーネント (64 ビット)	SPROlangx
	リンカースタブライブラリ	SPROsbld
	リンカースタブライブラリ (64 ビット)	SPROsbldx
	別パッケージの共有 libcx	SPROlcxs
	DWARF サポートライブラリ	SPROdwrfb
	Red-Black ツリーライブラリ	SPROrdbkb
	DWARF サポートライブラリ 64 ビット	SPROdwrfx
	Red-Black ツリーライブラリ V9	SPROrdbkx
C++ の Sun ONE Studio 8 標準ライ ブラリ SPROSCL	C++ の標準クラスライブラリ	SPROscl
	C++ の標準クラスライブラリ (64 ビット)	SPROsclx
	C++ の標準クラスライブラリのマニュアルペー ジ	SPROmrstd
Sun ONE Studio.h++ 7.1SPROTL7	C++ の Tools.h++ 7.1 クラスライブラリ	SPROtlbn7
	C++ の Tools.h++ 7.1 クラスライブラリ	SPROtl17
	C++ の Tools.h++ 7.1 クラスライブラリ (64 ビット)	SPROtl7x
	C++ の Tools.h++ 7.1 クラスライブラリ (64 ビット)	SPROtl17x
Sun ONE Studio イ ンクリメンタルリ ンカー SPROILD	インクリメンタルリンカー	SPROild
	インクリメンタルリンカー 64 ビット	SPROildx
Sun ONE Studio C9X Math LibrarySPROM9XS	C9X Math Library	SPROM9xs
	C9X Math Library (64 ビット)	SPROM9xsx
	C9X Math Library Profiled (64 ビット)	SPROM9xpx

表 A-2 Solaris SPARC プラットフォーム版用 Sun ONE Studio 8 製品パッケージのコンポーネント (続き)

コンポーネント名	コンポーネント	パッケージ および コンポーネント リスト
Sun ONE Studio	libsunmath 共用/プロファイル (64 ビット)	SPROsmpx
Sunmath ライブラ リ SPROSM	libsunmath 共用 (64 ビット) 別パッケージの共用 libsunmath	SPROsmsx SPROsunms
STLport, Source DistributionSTLSR C	STLport version 4 ソース	SPROstl4h
Sun ONE Studio	STLport version 4 静的ライブラリ	SPROstl4a
STPportSPROSTLP ORT	STLport version 4 ソース	SPROstl4h
	STLport version 4 動的ライブラリ	SPROstl4o
	STLport version 4 動的ライブラリ (64 ビット)	SPROstl4x
	STLport version 4 動的ライブラリ (64 ビット)	SPROstl4y

表 A-2 Solaris SPARC プラットフォーム版用 Sun ONE Studio 8 製品パッケージのコンポーネント (続き)

コンポーネント名	コンポーネント	パッケージ および コンポーネント リスト
Sun ONE Studio	コンパイラ FORTRAN 77 ツール	SPROftool
コンパイラ Fortran クラスタ SPROCFOR	Sun ONE Studio インクリメンタルリンカー 共通コンポーネント コンパイラ Fortran 95 ライブラリ コンパイラ Fortran 90 共通のツール Fortran 95 のマニュアルページと オンライン情報 Fortran 77 のマニュアルページと オンライン情報 共通のコンパイラのマニュアルページ/オンラ イン情報 C9X Math Library Sunmath ライブラリ ソースブラウザのマニュアルページ/オンライ ン情報 ソースブラウザ シリアル番号インストールツールと各種ファイ ル GUI インタフェースサポート	SPROILD SPROLANG SPROLIB90 SPROf90 SPROutool SPROmrf90 SPROmrf77 SPROmrcom SPROM9XS SPROSM SPROmrsbe SPROsbe SPROCMISC SPROsvc
Sun ONE Studio コ ンパイラ Fortran 95 ライブラリ SPROLIB90	Fortran 95 静的ライブラリ Fortran 95 動的ライブラリ Fortran 95 動的ライブラリ (64 ビット) Fortran 95 静的ライブラリ (64 ビット)	SPRO190 SPRO190s SPRO190sx SPRO190x

表 A-2 Solaris SPARC プラットフォーム版用 Sun ONE Studio 8 製品パッケージのコンポーネント (続き)

コンポーネント名	コンポーネント	パッケージ および コンポーネント リスト
レガシーライブラ リをとまなう Sun ONE Studio コンパ イラ Fortran 95 SPROCFORL	コンパイラ FORTRAN 77 ツール	SPROftool
	共通コンポーネント	SPROLANG
	FORTRAN 77 動的ライブラリ	SPROl77s
	FORTRAN 77 動的ライブラリ (64 ビット)	SPROl77sx
	コンパイラ Fortran 95 ライブラリ	SPROLIB90
	コンパイラ Fortran 90	SPROf90
	Sun ONE Studio インクリメンタルリンカー	SPROILD
	共通のツール	SPROutool
	Fortran 77 のマニュアルページと オンライン情報	SPROMrf77
	Fortran 95 のマニュアルページと オンライン情報	SPROMrf90
	共通のコンパイラのマニュアルページ/オンライ ン情報	SPROMrcom
	C9X Math Library	SPROM9XS
	Sunmath ライブラリ	SPROSM
	ソースブラウザのマニュアルページ/オンライ ン情報	SPROMrsbe
	ソースブラウザ	SPROsbe
Sun ONE Studio LockLint、製品ソ フトウェア SPROCLKLT	シリアル番号インストールツールと各種ファイ ル	SPROCMISC
	GUI インタフェースサポート	SPROsvc
	Locklint ソフトウェア	SPROlklnt
	マニュアルページとオンライン情報	SPROMrmp

表 A-2 Solaris SPARC プラットフォーム版用 Sun ONE Studio 8 製品パッケージのコンポーネント (続き)

コンポーネント名	コンポーネント	パッケージ および コンポーネント リスト
Sun ONE Studio	デバッグツール	SPROdbx
dBX デバッグツ ル SPROCDBX	デバッグツール(64 ビット) dbx のマニュアルページとオンライン情報 デバッグツール デバッグツール(64 ビット) シリアル番号インストールツールと各種ファイ ル	SPROdbxx SPROmrdbx SPROjdbx SPROjdbxx SPROCMISC
Sun ONE Studio 8 構築ソフトウェア SPROCBLD	共通のコンパイラのマニュアルページ/オンラ イン情報 分散 make	SPROmrcom SPROdmake
Sun ONE Studio 8 インベントリファ イル SPROCFD	インベントリファイル	SPROfd
DWARF ライブラ リ、Source DistributionDWSRC	DWARF ライブラリ	SPROdwrfs
RDBLKs, Source DistributionRDBLK SRC	Red-Black ツリーライブラリ	SPROdbks
Sun Performance アーカイブライ ブラリ SPROPL	Performance Library 32 ビット (アーカイブ/MT) Performance Library 64 ビット (アーカイブ/MT) Performance Library 32 ビット (アーカイブ) Performance Library 64 ビット (アーカイブ)	SPROplm SPROplmx SPROpl SPROplx

表 A-2 Solaris SPARC プラットフォーム版用 Sun ONE Studio 8 製品パッケージのコンポーネント (続き)

コンポーネント名	コンポーネント	パッケージ および コンポーネント リスト
Sun Performance 共用ライブラリ SPROPLS	Performance Library 32 ビット (共用/MT)	SPROplms
	Performance Library 64 ビット (共用/MT)	SPROplmsx
	Performance Library 32 ビット (共用)	SPROpls
	Performance Library 64 ビット (共用)	SPROplsx
Sun ONE Studio ガ ベージコレクタ SPROLGC	C++ のガベージコレクタライブラリ	SPROgc
	C++ のガベージコレクタライブラリ 1.0	SPROlgc
	C++ のガベージコレクタのマニュアルページ	SPROmrgc
Sun ONE Studio ガ ベージコレクタ 64 ビットライブラリ 1.0SPROLGX	C++ のガベージコレクタライブラリ	SPROgcx
	C++ のガベージコレクタライブラリ 1.0	SPROlgcx
Sun ONE Studio ガ ベージコレクタ ラスト SPROLGC	Sun ONE Studio ガベージコレクタ	SPROLGC
	Sun ONE Studio ガベージコレクタ 64 ビットラ イブラリ 1.0	SPROLGX
Sun Performance Library SPROCPERF	共通コンポーネント	SPROLANG
	コンパイラ Fortran 95 ライブラリ	SPROLIB90
	Sun Performance Library のマニュアルページ	SPROmrpl
	Performance Library の共通コンポーネント	SPROplg
	別パッケージの共用 libsunmath	SPROsunms
	libsunmath 共用 (64 ビット)	SPROsmsx
	Sun perflib アーカイブライブラリ	SPROPL
	Sun perfLib 共用ライブラリ	SPROPLS
	Sun Interval Performance Library の共通コン ポーネント	SPROiplg
	Sun Interval Performance Library のマニュアル	SPROMripl
	Sun Interval Performance Library (32 ビット)	SPROipl
	Sun Interval Performance Library (64 ビット)	SPROiplx

表 A-2 Solaris SPARC プラットフォーム版用 Sun ONE Studio 8 製品パッケージのコンポーネント (続き)

コンポーネント名	コンポーネント	パッケージ および コンポーネント リスト
Sun ONE Studio パ フォーマンスアナ ライザ SPROCPRFA	パフォーマンスアナライザのマニュアルページ とオンライン情報	SPROmrpan
	パフォーマンスアナライザ	SPROprfan
	パフォーマンスアナライザ (64 ビット)	SPROprfax
	シリアル番号インストールツールと各種ファイ ル	SPROCMISC
Sun ONE Studio マ ニュアルセット SPROCDPCS	著作権と画像	SPROhtbas
	リリースノート	SPROhtrel
	Tools.h++ 7.1 マニュアル	SPROhttl17
	標準ライブラリ C++ マニュアル	SPROhtstd
	インストールマニュアル	SPROhtins
	Fortran マニュアル	SPROhtftn
	C コンパイラのマニュアル	SPROhtcc
	共通のツールのマニュアル	SPROhtcom
	C++ コンパイラ	SPROhtcpl
	OpenMP API ユーザーズガイド	SPROhtomp
	Performance library のマニュアル	SPROhtpl
Sun ONE Studio デ モ SPROCDEMO	アナライザと dbx のマニュアル	SPROhtws
	デモファイル	SPROdemo
Sun ONE Studio 8 Connector to Forte Developer 6 update 2 SPROCKRYPT	Sun ONE Studio 8 connector to Forte Developer 6 update 2	SPROkrypt

表 A-2 Solaris SPARC プラットフォーム版用 Sun ONE Studio 8 製品パッケージのコンポーネント (続き)

コンポーネント名	コンポーネント	パッケージ および コンポーネント リスト
シリアル番号イン ストールツールと 各種ファイル SPROCMISC	シリアル番号インストールツール Sun ONE Studio 8 インストーラとの各種ファイ ル Sun ONE Studio 8 インベントリファイル	SPROsnit SPROpnsn SPROfd

表 A-3 Solaris x86 プラットフォーム版用 Sun ONE Studio 8 製品パッケージメタクラスタ
のコンポーネント

メタクラスタの説明
と

メタクラスタ名	コンポーネント	コンポーネント名
Sun ONE Studio 8 コ ンパイラ SPROMCPL	Sun ONE Studio 8 コンパイラ C	SPROCC
	Sun ONE Studio 8 コンパイラ C++	SPROCCC
Sun ONE Studio 8 ツール SPROMTOOL	Sun ONE Studio LockLint、製品ソフト ウェア	SPROCLKLT
	Sun ONE Studio 8 デバッグツール	SPROCDBX
	Sun ONE Studio 8 ガベージコレクタ	SPROCLGC
	Sun ONE Studio 8 パフォーマンスアナライ ザ	SPROCPRFA
	Sun ONE Studio 8 構築ソフトウェア	SPROCBLD
	Sun ONE Studio Demo	SPROCDemo
Sun ONE Studio 8 マ ニュアルセット SPROMDOCS	Sun ONE Studio 8 マニュアル	SPROCDocs
Sun ONE Studio 8 Source Distribution SPROMSRC	DWARF ライブラリ	DWSRC
	Red-Black ツリーライブラリ	RDBLKSRc
	Sun ONE Studio 8 STLport	STLSRC

表 A-4 Solaris x86 プラットフォーム版用 Sun ONE Studio 8 製品パッケージのコンポーネント

コンポーネント名	コンポーネント	パッケージ および コンポーネント リスト
Sun ONE Studio 8	共通コンポーネント	SPROLANG
コンパイラ C	Sun ONE Studio インクリメンタルリンカー	SPROILD
SPROCC	コンパイラ C	SPROcc
	共通のツール	SPROutool
	C のマニュアルページ/オンライン情報	SPROmrcc
	共通のコンパイラのマニュアルページ/オンライン情報	SPROmrcom
	C9X Math Library	SPROM9XS
	ソースブラウザのマニュアルページ/オンライン情報	SPROmrsbe
	ソースブラウザ	SPROsbe
	Sunmath ライブラリ	SPROSM
	シリアル番号インストールツールと各種ファイル	SPROCMISC
	GUI インタフェースサポート	SPROsvc
コンパイラ C++SPROCPL	コンパイラ C++	SPROcpl

表 A-4 Solaris x86 プラットフォーム版用 Sun ONE Studio 8 製品パッケージのコンポーネント (続き)

コンポーネント名	コンポーネント	パッケージ および コンポーネント リスト
Sun ONE Studio 8	共通コンポーネント	SPROLANG
コンパイラ C++ SPROCCC	インクリメンタルリンカー	SPROIILD
	コンパイラ C++	SPROCPL
	共通のツール	SPROOutool
	共通のコンパイラのマニュアルページ/オンライン情報	SPROmrcom
	C9X Math Library	SPROM9XS
	ソースブラウザのマニュアルページ/オンライン情報	SPROMrsbe
	ソースブラウザ	SPROsbe
	STLport	SPROSTLPORT
	C++ Complex Library	SPROcml
	C++ のマニュアルページ/オンライン情報	SPROMrcpl
	Tools.h++ 7.1	SPROTL7
	C++ の Sun ONE Studio 8 標準ライブラリ	SPROSCL
	Sunmath ライブラリ	SPROSM
	シリアル番号インストールツールと各種ファイル	SPROCMISC
	GUI インタフェースサポート	SPROsvc
Sun ONE Studio コ ンパイラの共通コ ンポーネント SPROLANG	共通コンポーネント	SPROlang
	リンカースタブライブラリ	SPROsbld
	DWARF サポートライブラリ	SPROdwrfb
	Red-Black ツリーライブラリ	SPROrdbkb
C++ の Sun ONE Studio 8 標準ライ ブラリ SPROSCL	C++ の標準クラスライブラリ	SPROsc1
	C++ の標準クラスライブラリのマニュアルページ	SPROMrstd

表 A-4 Solaris x86 プラットフォーム版用 Sun ONE Studio 8 製品パッケージのコンポーネント (続き)

コンポーネント名	コンポーネント	パッケージ および コンポーネント リスト
Sun ONE Studio	C++ の Tools.h++ 7.1 クラスライブラリ	SPROtlbn7
Tools.h++ 7.1SPROTL7	C++ の Tools.h++ 7.1 クラスライブラリ	SPROtl17
Sun ONE Studio イン クリメンタルリ ンカー SPROILD	インクリメンタルリンカー	SPROild
Sun ONE Studio C9X Math LibrarySPROM9XS	C9X Math Library	SPROM9xs
Sun ONE Studio Sunmath ライブラ リ SPROSM	別パッケージの共用 libsunmath	SPROsunms
STLport, Source DistributionSTLSR C	STLport version 4 ソース	SPROstl4h
Sun ONE Studio STLportSPROSTLP ORT	STLport version 4 静的ライブラリ	SPROstl4a
	STLport version 4 ソース	SPROstl4h
	STLport version 4 動的ライブラリ	SPROstl4o
Sun ONE Studio デ バッグツール SPROCDBX	デバッグツール	SPROdbx
	dbx のマニュアルページとオンライン情報	SPROmrdbx
	デバッグツール	SPROjdbx
	シリアル番号インストールツールと各種ファイ ル	SPROCMISC
Sun ONE Studio 8 構築ソフトウェア SPROCBLD	共通のコンパイラのマニュアルページ/オンラ イン情報	SPROmrcom
	分散 make	SPROdmake
Sun ONE Studio 8 インベントリファ イル SPROCFD	インベントリファイル	SPROfd

表 A-4 Solaris x86 プラットフォーム版用 Sun ONE Studio 8 製品パッケージのコンポーネント (続き)

コンポーネント名	コンポーネント	パッケージ および コンポーネント リスト
DWARF ライブラ リ、Source DistributionDWSRC	DWARF ライブラリ	SPROdwrf s
RDBLKS, Source DistributionRDBLK SRC	Red-Black ツリーライブラリ	SPROdbks
Sun ONE Studio ガ ベージコレクタ SPROLGC	C++ のガベージコレクタライブラリ	SPROgc
	C++ のガベージコレクタライブラリ 1.0	SPROLgc
	C++ のガベージコレクタのマニュアルページ	SPROmrgc
Sun ONE Studio ガ ベージコレクタク ラスト SPROLGC	Sun ONE Studio ガベージコレクタ	SPROLGC
Sun ONE Studio パ フォーマンスアナ ライザ SPROCPRFA	パフォーマンスアナライザのマニュアルページ とオンライン情報	SPROmrpan
	パフォーマンスアナライザ	SPROprfan
	シリアル番号インストールツールと各種ファイ ル	SPROCMISC
Sun ONE Studio マ ニュアルセット SPROCDOS	著作権と画像	SPROhtbas
	リリースノート	SPROhtrel
	Tools.h++ 7.1 マニュアル	SPROhttl7
	標準ライブラリ C++ マニュアル	SPROhtstd
	C コンパイラのマニュアル	SPROhtcc
	共通のツールのマニュアル	SPROhtcom
	C++ コンパイラ	SPROhtcpl
Sun ONE Studio デ モ SPROCDEMO	アナライザと dbx のマニュアル	SPROhtws
	デモファイル	SPROdemo

表 A-4 Solaris x86 プラットフォーム版用 Sun ONE Studio 8 製品パッケージのコンポーネント (続き)

コンポーネント名	コンポーネント	パッケージ および コンポーネント リスト
シリアル番号イン ストールツールと 各種ファイル SPROCMISC	シリアル番号インストールツール Sun ONE Studio 8 インストーラの各種ファイル Sun ONE Studio 8 インベントリファイル	SPROsnit SPROpnsn SPROfd
Sun ONE Studio 8 Connector to Forte Developer 6 update 2 SPROCKRYPT	Sun ONE Studio 8 connector to Forte Developer 6 update 2	SPROkrypt

パッチの識別番号と説明

Sun ONE Studio 8, Compiler Collection ソフトウェアには、オペレーティングシステムと製品のパッチが含まれています。このリリースのコンパイラやツールを正しく動作させるには、これらのパッチが必要です。この付録では、このリリースに含まれている Solaris オペレーティング環境用と Sun ONE Studio 8 用のパッチを示します。インストール時に「製品の選択」区画でデフォルトの選択項目を変更しなければ、これらのパッチが自動的にインストールされます。

表 B-1 に Solaris 7 オペレーティング環境 (SPARC® プラットフォーム版) のパッチの識別番号と説明を示します。

表 B-2 に Solaris 7 オペレーティング環境 (x86 プラットフォーム版) のパッチの識別番号と説明を示します。

表 B-3 に Solaris 8 オペレーティング環境 (SPARC® プラットフォーム版) のパッチの識別番号と説明を示します。

表 B-4 に Solaris 8 オペレーティング環境 (x86 プラットフォーム版) のパッチの識別番号と説明を示します。

表 B-5 に Solaris 9 オペレーティング環境 (SPARC® プラットフォーム版) のパッチの識別番号と説明を示します。

表 B-6 に Solaris 9 オペレーティング環境 (x86 プラットフォーム版) のパッチの識別番号と説明を示します。

表 B-1 Sun ONE Studio 8 ソフトウェアによってインストールされる Solaris 7 SPARC プラットフォーム版用のパッチ

パッチ識別番号	パッチの説明
106950-22	リンカー (32 ビット)
106327-19	Solaris 7 C++ 実行時サポートライブラリ (32 ビット)
106300-20 (106327-19 が必要)	Solaris 7 C++ 実行時サポートライブラリ (64 ビット)
106748-04	SCCS および make (32 ビット)
107058-01	アセンブラ

表 B-2 Sun ONE Studio 8 ソフトウェアによってインストールされる Solaris 7 x86 プラットフォーム版用のパッチ

パッチ識別番号	パッチの説明
106951-22	リンカー (32 ビット)
106328-17	Solaris 7 C++ 実行時サポートライブラリ (32 ビット)
106749-04	SCCS および make (32 ビット)

表 B-3 Sun ONE Studio 8 ソフトウェアによってインストールされる Solaris 8 SPARC プラットフォーム版用のパッチ

パッチ識別番号	パッチの説明
109147-21	リンカー (32 ビット)
108434-12	Solaris 8 C++ 実行時サポートライブラリ (32 ビット)
108435-12 (108434-12 が必要)	Solaris 8 C++ 実行時サポートライブラリ (64 ビット)
111697-04	SCCS および make

表 B-4 Sun ONE Studio 8 ソフトウェアによってインストールされる Solaris 8 x86 プラットフォーム版用のパッチ

パッチ識別番号	パッチの説明
109148-21	リンカー (32 ビット)
108436-10	Solaris 8 C++ 実行時サポートライブラリ (32 ビット)
111701-04	SCCS および make (32 ビット)

表 B-5 Sun ONE Studio 8 ソフトウェアによってインストールされる Solaris 9 SPARC プラットフォーム版用のパッチ

パッチ識別番号	パッチの説明
111711-05	Solaris 9 C++ 実行時サポータライブラリ (32 ビット)
111712-05 (111711-05 が必要)	Solaris 9 C++ 実行時サポータライブラリ (64 ビット)
111703-03	SCCS および make (32 ビット)
112963-05	リンカー (32 ビット)

表 B-6 Sun ONE Studio 8 ソフトウェアによってインストールされる Solaris 9 x86 プラットフォーム版用のパッチ

パッチ識別番号	パッチの説明
111713-02	Solaris 9 C++ 実行時サポータライブラリ (32 ビット)
113986-01	リンカー (32 ビット)

付録 C

Sun ONE Studio 8 ソフトウェアのコンポーネントのバージョン番号

この付録では、Sun ONE Studio 8, Compiler Collection ソフトウェアに含まれているコンポーネントのバージョン番号を示します。

表 C-1 に、各コンポーネントのバージョン番号を示します。

表 C-1 Sun ONE Studio 8 ソフトウェアのコンポーネントのバージョン番号

コンポーネント	バージョン番号
C	5.5
C++	5.5
Fortran 95	7.1
dbx	7.1
dmake	7.3
Locklint	2.4
パフォーマンスアナライザ	7.1
Tools.h++	7.1.0
標準 C++ ライブラリ	2.1.1
Sun パフォーマンスライブラリ	4.1
STLport	4.5.3

用語集

60日間試用シリアル 番号

ソフトウェアを 60 日間無料で使用するための番号。インストール時に生成できます。

ディスプレイ コンピュータ

インストーラウィンドウやコマンド行インストーラの表示先のコンピュータ。ローカル表示によるインストールでは、ディスプレイコンピュータとソースコンピュータは同じコンピュータです。リモート表示によるインストールでは、ディスプレイコンピュータとソースコンピュータは別々のコンピュータです。

インストール ディレクトリ

Sun ONE Studio 8, Compiler Collection 製品とライセンスをインストールするディレクトリ。デフォルトのインストールディレクトリは、ソースコンピュータの /opt ディレクトリです。

ローカル表示

インストール方法の 1 つで、製品 CD-ROM またはダウンロードした製品ソフトウェアが、インストールの実行に使用するものと同じコンピュータにあります。ソースコンピュータでインストーラを実行し、ソースコンピュータに接続されたモニターにインストーラウィンドウを表示します。

リモート表示

インストール方法の 1 つで、製品 CD-ROM またはダウンロードした製品ソフトウェアが、インストーラのウィンドウまたはコマンド行インストーラとは異なるコンピュータにあります。rlogin コマンドを使用して、製品 CD-ROM またはダウンロードしたファイルを含むソースコンピュータにログインします。インストーラウィンドウの表示先として、DISPLAY 環境変数に、ディスプレイコンピュータに接続されたモニターを設定します。インストーラはソースコンピュータで実行しますが、インストーラウィンドウやコマンド行インストーラはディスプレイコンピュータに表示します。

正規ライセンスのシリアル番号

26 桁の番号。製品パッケージに同梱されたカードに記載されています。インストール中にこの正規ライセンスのシリアル番号を入力するか、または snit ソフトウェアを使用して入力する必要があります。

ソースコンピュータ

インストーラの実行先のマシン。このコンピュータに製品 CD-ROM をセットします(またはダウンロードした製品ソフトウェアを配置します)。

試用版 (Try and Buy)

60 日間試用シリアル番号を使って、試用のためにインストールする Sun ONE Studio 8, Compiler Collection ソフトウェア。

索引

数字

- 60日間試用シリアル番号
 - 永久ライセンスへのアップグレード, 8, 19, 23, 26
 - 生成, 19, 23, 26
- 60日間試用シリアル番号からのアップグレード, 8, 19, 23, 26

F

- Forte Developer 6 update 2
 - Compiler Collection での使用, 2
 - IDE へのパスの設定, 10
 - コネクタのインストール, 19, 23

J

- JumpStart インストール, 27

N

- NFS マウントファイルシステム
 - 書き込み権, 49
 - リモート表示インストール, 12

P

- productregistry ファイル、破壊された, 47

S

- snit、シリアル番号インストールツールを参照
- Solaris Product Registry ツール, 45, 46

T

- ToolTalk ソフトウェアセッション、初期化, 50

あ

- アクセスできるマニュアル, xii
- アンインストール
 - グラフィカルユーザーインターフェース, 38
 - コマンド行, 40
 - 失敗、対処, 46

い

- インストール
 - CD-ROM, 7
 - JumpStart, 27
- NFS マウントファイルシステムでのリモート表示, 12

- 概要, 1
- グラフィカルユーザーインターフェース, 16
- 互換性, 7
- コマンド行, 21
- 失敗、確認と対処, 45
- シンボリックリンクによってアクセスされるディレクトリ, 43
- ディレクトリ, 77
- パッチインストーラ, 25
- リモート表示, 11

か

- 環境変数
 - MANPATH, 30
 - PATH, 29
 - 変更, 28

こ

- 互換性, 7

さ

- サポートされている Solaris のバージョン, 3

し

- システム条件, 3
- 書体と記号について, x
- 条件、システム, 3
- 試用版ソフトウェア、アップグレード, 8
- シリアル番号
 - 60日間試用シリアル番号, 77
 - 60日間試用シリアル番号の生成, 19, 23, 26
 - インストール, 19, 23, 26
 - 検索, 9
 - シリアル番号インストールツールのインストール, 8
 - 正規ライセンス, 78
 - 忘れてしまったシリアル番号の問い合わせ, 49

- シリアル番号、内容の表示, 48
- シリアル番号インストールツール (snit)
 - 60 日間使用版から永久ライセンスにアップグレードするために使用, 8
 - serial.dat ファイルの表示, 48
 - インストールされたシリアル番号の確認, 48

す

- スワップ空間
 - チェック, 3
 - 追加, 4

そ

- ソースコンピュータ, 78
- ソフトウェア
 - 互換性, 7
 - 削除 (アンインストールを参照), 35

て

- ディスプレイコンピュータ, 77

は

- バージョン
 - 互換性, 7
 - コンポーネントの, 75
- パッケージコンポーネント情報, 53
- パッチ
 - インストール, 25
 - コマンドオプション, 26
- パッチの識別番号と説明, 71

ひ

- 表示
 - NFS マウントファイルシステムでのリモート表示, 12

リモート, 11, 78

ローカル, 10, 77

ふ

ファイル名のアンインストール, 36

ま

マニュアル索引, xii

マニュアル、アクセス, xii

め

メタクラスタ情報, 53

ら

ライセンス (シリアル番号を参照), 8

ライセンスファイル、内容の表示, 8

り

リモート表示, 11, 78

ろ

ローカル表示, 10, 77

ログファイル、参照, 48

